



研究者総覧 2021



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

研究者総覧 2021



新潟国際情報大学の「研究者総覧」(2021)について

本学は、1994年(平成6年)「環日本海拠点都市新潟の地に国際化、情報化が進む現代社会に貢献する人材の育成に努めること」という理念の下に設立され、その後おかげ様で順調に発展を続け四半世紀が経過しました。この間送り出した多くの卒業生は地元新潟を中心に活躍しており、建学の目的に沿って着実に歴史を積み重ねて来たと自負しております。

本学では2014年の創立20周年を機に学部学科、教育課程の見直しなどを行い、それまで「情報文化学部」1学部制であったところに新たに「国際学部」を加えた2学部制に移行、そのうえで2018年からは従来の「情報文化学部」を「経営情報学部」に改組しこの中に情報システム学科と経営学科の2学科を設けました。これらの過程で「国際学部」においては国際化に適切に対応出来る人材の育成を一層充実させるため、英語専門コースの新設や北東アジア諸国の言語(露・中・韓)教育の強化と併せて各地域教育の強化などを行って参りました。情報化に対応する人材育成を目的とする「経営情報学部」でも情報システム学科において情報システムに通暁した人材の育成に注力する一方で、経営学科において経営学分野の学問領域の充実を図ることにより情報システムを有効に使いこなしながら企業経営に貢献できる人材を育てて行くことにしております。

また本学では新たな四半世紀に向けて歩を踏み出したこの機会に「新潟国際情報大学(NUIS)中期計画Ⅱ(2020～2024年)“未来を創る大学——若者と新潟に未来を!”」を策定し、教員ならびに職員全員が力を併せて大学の目的であります教育、研究及び地域貢献に注力することと致しました。「国際学部」には米国、中国、韓国、ロシア等外国出身の教員も多く、それぞれの言語教育や地域教育に携わっています。「経営情報学部」には企業での勤務経験のある教員も多く、企業内で直ちに役に立つ実践的な情報システム教育に当たっています。私たちはこのように「国際化」、「情報化」という現在最も重要視されているテーマを対象に、時代の変化を的確に捉えながら実践的かつ特徴ある教育・研究に努めて参ります。


この「研究者総覧」はこうした本学の教員について、研究内容等と併せご紹介しております。知的財産としての彼らの知識、研究成果を、本学の学生はもとより本学を目指す高校生、企業、行政機関、他大学、教育関係者、地域の関係者等多くの皆さま方に広く知っていただくと共に、いろいろな機会にこれを活用していただければ幸いに存じます。

ここに総覧を皆さまにお送りし、本学教育研究者をご紹介申し上げます。そしてこの総覧がこうした所期の目的・役割を十分に果たすことを強く願っております。

2021年4月

新潟国際情報大学 学長 野崎 茂

凡 例

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	氏 名 ○○○○ ○○○○ ○○○○○○ ○
	性 別 ○○○○○○○○○○○○○○
	生 年 月 日 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	職 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	連絡方法 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 学 歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	学 位 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 職 歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 受 賞 歴 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	研究分野 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	主要業績 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	所属学会 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ そ の 他 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

収録内容

2021年4月1日現在で本学に在職する専任の教員（教授、准教授、講師）を収録した。

掲載順

学長並びに本学を構成する教員を学科毎に掲載し、その所属ごとに教授、准教授、講師の順とした。

掲載事項

- 氏 名 フリガナ ローマ字を付記。
- 性 別 男・女の別を記載。
- 生 年 月 日 西暦で記載。
- 職 名 現在の職名及び（ ）書きで就任年月を記載。
- 連絡方法 Eメール（電子メール）アドレスを記載。
- 学 歴 大学等及び大学院を記載。なお、大学院博士課程の単位取得満期退学も記載。
- 学 位 学位名、授与大学名、取得年月を記載。
- 職 歴 職名、在職期間を併記。（間近の経歴を含む。）
- 受 賞 歴 主要な学術に関する受賞状況について、賞の名称、受賞年月を記載。
- 研究分野 現在の研究テーマについて記載。
- 主要業績 過去に発行した著書・学术论文のうちから主なものをその題名、発行年月、誌名・発行所を記載。
- 所属学会 主なものを記載。
- そ の 他 所属する委員会や研究会等、特記すべき事項を記載。

目 次

学長	6
国際学部 国際文化学科	9
白井 陽一郎	11
區 建英	12
越智 敏夫	13
小山田 紀子	14
佐々木 寛	15
澤口 晋一	16
申 銀珠	17
アレクサンドル プラーソル	18
矢口 裕子	19
吉澤 文寿	20
熊谷 卓	21
小林 伊織	22
佐藤 若菜	23
鈴木 佑也	24
瀬戸 裕之	25
藤本 直生	26
山田 裕史	27
佐藤 泰子	28
堀川 祐里	29
ジュリアス マルティネス	30
シンシア スミス	31
経営情報学部 経営学科	33
内田 亨	35
木村 誠	36
佐々木 宏之	37
藤瀬 武彦	38
藤田 晴啓	39
阿部 聡	40
小宮山 智志	41
佐々木 桐子	42
藤田 美幸	43
山下 功	44
今井 裕紀	45
土屋 翔	46
経営情報学部 情報システム学科	49
安藤 篤也	51
石井 忠夫	52
石川 洋	53
宇田 隆幸	54
梅原 英一	55
上西園 武良	56
桑原 悟	57
小林 満男	58
近山 英輔	59
河原 和好	60
中田 豊久	61
宮北 和之	62



学 長

氏 名	野崎 茂	NOZAKI Shigeru
性 別	男	
生 年 月 日	昭和23年8月生	
職 名	学長 (2018年4月)	
連 絡 方 法	E-mail : nozaki@nuis.ac.jp	
学 歴	昭和47年 3月	東京大学法学部卒業
職 歴	昭和47年 4月	日本輸出入銀行入行 営業第1部、経理部、海外投資研究所、 ブエノスアイレス駐在員、人事部などの勤務を経て
	平成 6年 4月	// プロジェクト・ファイナンス担当審議役付参事役 (ロンドン長期出張 英国国立国際問題研究所客員研究員)
	平成 8年 4月	// 総務部次長
	平成11年10月	国際協力銀行 (行名変更) 資源金融部長
	平成12年10月	// 金融業務部長
	平成14年 5月	// 大阪支店長 (甲南大学大学院ビジネスコース客員講師 平成15年7月~9月)
	平成15年10月	国際協力銀行理事就任 (平成19年3月退任)
	平成22年 9月	公益財団法人環日本海経済研究所理事就任 (現任)
	平成30年 4月	新潟国際情報大学学長就任

国際学部 国際文化学科

臼井 陽一郎

區 建英

越智 敏夫

小山田 紀子

佐々木 寛

澤口 晋一

申 銀珠

アレクサンドル プラーソル

矢口 裕子

吉澤 文寿

熊谷 卓

小林 伊織

佐藤 若菜

鈴木 佑也

瀬戸 裕之

藤本 直生

山田 裕史

佐藤 泰子

堀川 祐里

ジュリアス マルティネス

シンシア スミス





氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

学位
職歴
研究分野
主要業績

ウスイ ヨウイチロウ

臼井 陽一郎 USUI Yoichiro

男

1965年8月10日

教授（2005年4月）

E-mail : usui@nuis.ac.jp

1989年 早稲田大学社会科学部卒業

1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了

1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

修士（経済学）、MA by research（リーズ大学法学部 法学研究科）

1994～1996年 早稲田大学社会科学部助手

EU政治

著書

- ①（翻訳）『トライバル化する世界：集会的トラウマがもたらす戦争の危機』明石書店、2020年。（臼井陽一郎監訳）
- ②（共著）『変わりゆくEU：永遠平和のプロジェクトの行方』（臼井陽一郎編著）明石書店、2020年。
- ③（翻訳）『ダウン症をめぐる政治：誰もが排除されない社会へ向けて』明石書店、2018年。（臼井陽一郎監訳）
- ④（共著）『入門政治学365日』（臼井陽一郎他編著）ナカニシヤ出版、2018年。
- ⑤（共著）『国際規範はどう実現されるか：複合化するグローバル・ガバナンスの動態』（西谷真規子編著）ミネルヴァ書房、2017年。
- ⑥（共著）『EUの規範政治：グローバルヨーロッパの理想と現実』（臼井陽一郎編著）ナカニシヤ出版、2015年。
- ⑦（単著）『環境のEU、規範の政治』ナカニシヤ出版、2013年。
- ⑧（共著）『紛争と和解の政治学』（松尾秀哉・臼井陽一郎編著）ナカニシヤ出版、2013年。
- ⑨（共著）『EUの規制力』（遠藤乾・鈴木一人編著）日本経済評論社、2012年。
- ⑩（共著）『EU環境法』（庄司克宏編著）慶應義塾大学出版会、2009年。
- ⑪（共著）『東アジア共同体憲章案：実現可能な未来をひらく論議のために』（中村民雄・須網隆夫・臼井陽一郎・佐藤義明）昭和堂、2008年。
- ⑫（共著）『国際機構』（庄司克宏編著）岩波書店、2006年。
- ⑬（共著）『EU研究の新地平：前例なき政体への接近』（中村民雄編著）ミネルヴァ書房、2005年。

論文

- ①「EUの対外行動にみる規範政治の諸相—近隣クロスボーダー協力（ENI CBC）を事例に」『グローバル・ガバナンス』第2号、2015年。
- ②「EUのマルチレベル・ガバナンス論—その統合理論としての意義の再考」『国際政治』第182号、2015年。
- ③「EUの持続性戦略と欧州統合の行方」『日本EU学会年報』第29号、2009年。
- ④ 'The Democratic Quality of Soft Governance in the EU Sustainable Development Strategy : A Deliberative Deficit.' *Journal of European Integration*. Vol.29:5, pp.619-633, December 2007.
- ⑤ 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: An Interface between Law and Politics.' 『日本EU学会年報』第26号、2006年。
- ⑥ 'Evolving Environmental Norms in the European Union.' *European Law Journal*.Vol.9:1, 2003.

所属学会

UACES（英国EU学会）、日本EU学会（事務局長）、国際政治学会
日本政治学会、日本比較政治学会、グローバル・ガバナンス学会（理事）



氏名	區建英 OU Jianying
性別	女
生年月日	1955年10月27日
職名	教授 (1998年4月)
連絡方法	E-mail : ou@nuis.ac.jp
学歴	1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業 1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業 (文学修士) 1993年 東京大学大学院博士課程修了
学位	博士 (学術、東京大学、1993年3月)
職歴	1984 ~ 1993年 (中国) 暨南大学歴史学部専任講師 1988 ~ 1995年 学習院大学文学部兼任講師 1993 ~ 1994年 東京大学教養学部客員研究員 1994 ~ 1997年 新潟国際情報大学助教授 2015 ~ 2016年 中国 南開大学客員研究員、北京大学客員教授
受賞歴	2021年1月 中国社会科学院日本研究所 第12回優秀論文「隅谷賞」受賞 (「隅谷賞」とは、隅谷三喜男先生の基金によって中国社会科学院で設立された学術賞で、日本研究の優秀論文を表彰するものである)。
研究分野	日本政治思想史、中国近代思想史。中国の民主化への関心から思想史を研究する。恩師・丸山眞男先生の思想史学から叢智を吸収して、中国の民主化という課題の研究に活用する。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①『近代日本と東アジア』(共著) 筑摩書房、1995年 ②『日本立憲政治の形成と変質』(共著) 吉川弘文館、2005年 ③『日本の思想』原著者・丸山眞男 (共訳) 生活・読書・新知 三聯書店、2009年 ④『自由と国民 厳復の模索』(単著) 東京大学出版会、2009年 ⑤『東アジアのナショナリズムと近代』(共著) 大阪大学出版会、2011年 ⑥『東亜的王権と思想』原著者・渡辺浩 (単訳) 上海古籍出版社、2016年 ⑦『福澤諭吉と日本近代化』原著者・丸山眞男 (単訳、第三版) 北京師範大学出版社、2018年 <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「福澤諭吉研究と丸山眞男」みすず書房『みすず』1992年10月号 ②「励みと悲しみ——近代中国と日本」岩波書店『世界』1995年3月号 ③「丸山眞男における国民国家と永久革命」歴史学研究会編『歴史学研究』1998年3月号 ④「清末中国の国粹派と明治日本の国粹主義」ソウル大学校奎章閣国学研究院『韓国文化』41巻、2008年6月号 ⑤「丸山眞男と私の中国研究」東京大学出版会『UP』2011年4月号 ⑥「厳復——国民の自由を探し求めた非主流の思想家」趙景達等編『東アジアの知識人 I 文明と伝統社会』有志舎、2013年 ⑦「孫中山「民権主義」的時空轉換與創造」潘朝陽編『儒家道統與民主共和』臺灣師範大学出版中心、2016年 ⑧「丸山眞男與福澤諭吉思想中的「獨立自尊」與「他者感覺」臺灣大學人文社會高等研究院『臺灣東亞文明研究學刊』第25期、2016年6月 ⑨「丸山眞男思想史学的軌跡」中国社会科学院『日本學刊』2019年第3期 (「隅谷賞」2021年受賞論文) ⑩「丸山眞男對中國現代性的看法」『臺灣東亞文明研究學刊』第16卷 第1期 (總第31期) 2019年6月
所属学会	中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会・日本思想史学会 アメリカ・American Political Science Association
その他	1986年に東京大学大学院で日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また東京大学教養学部の客員研究員を兼任した。1995年から現在に至って、慶應義塾福沢研究センター客員研究員を兼務している。



氏名	オチ トシオ 越智 敏夫 OCHI Toshio
性別	男
生年月日	1961年7月7日
職名	教授（2006年4月）
連絡方法	E-mail : tochi@nuis.ac.jp
学歴	1986年 立教大学法学部卒業 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学
学位	法学修士（慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月）
職歴	1992～1994年 立教大学法学部助手 1994～1996年 シカゴ大学研究員 1996年 新潟国際情報大学専任講師 2002～2003年 ニューヨーク大学研究員 2017年 ノースカロライナ大学チャペルヒル校研究員 2018年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員教授
研究分野	現代政治理論、アメリカ政治論。 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主にアメリカ合衆国を中心にした先進資本主義諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。またその議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。
主要業績	著書 ①『政治にとって文化とは何か』（ミネルヴァ書房、2018年） ②『現場としての政治学』（共著、日本経済評論社、2007年） ③『東アジア〈共生〉の条件』（共著、世織書房、2006年） ④『現代市民政治論』（共著、世織書房、2003年） ⑤『講座政治学 第一巻・政治理論』（共著、三嶺書房、1999年） 論文 ① “Apocalyptic Memories and Subjective Movements: Differentiation by Political Power in Postwar Japan,” <i>Boundary 2</i> , Summer 2015: Volume 42, Number 3. ② 「ナショナリズムと自己批判性」（立教法学、86号、2012年） ③ 「強制される忠誠：フィランソロピーとリベラル・ナショナリスト」（年報政治学2011- I 政治における忠誠と倫理の理念化、2011年） ④ 「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」（政治思想研究、第7号、2007年） ⑤ “Erasing Memories, Preserving Memories: Political Meanings of Pollution and Antipollution Movements in Cold War Japan,” <i>Journal of Pacific Asia</i> , vol.12, 2005.
所属学会	日本政治学会 日本アメリカ学会 American Political Science Association 政治思想学会



氏名	オヤマダ ノリコ 小山田 紀子 OYAMADA Noriko
性別	女
職名	教授 (2005年4月)
連絡方法	E-mail : oyamada@nuis.ac.jp
学籍	1978年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業 1984年 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程単位取得満期退学
学位	博士 (国際関係学) 津田塾大学、2014年2月
職歴	1987 ~ 1989年 日本学術振興会特別研究員 1987 ~ 1991年 神奈川大学外国語学部・法学部非常勤講師 1992 ~ 2005年 吉備国際大学社会学部専任講師・助教授 (1995年~) 2018 ~ 2019年 エクス・アン・プロヴァンス政治学院客員研究員
研究分野	マグレブ近現代史。北西アフリカのマグレブ(狭義には、チュニジア・アルジェリア・モロッコの旧フランス植民地をさす西方アラブ圏諸国)の地域研究を行ってきた。とりわけアルジェリアのフランス植民地化の歴史と脱植民地化の問題を研究対象としている。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ① バンジャマン・ストラ著『アルジェリアの歴史 — フランス植民地支配・独立戦争・脱植民地化』(共訳)(明石書店、2011年) ② 『アルジェリアを知るための62章』(共著)(明石書店、2009年) ③ 『イスラーム事典』(共著)(岩波書店、2002年) ④ 『マグリブへの招待 — 北アフリカの社会と文化』(共著)(大学図書出版、2008年3月) <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「独立後のチュニジアにおける農業政策の展開」『国際関係研究所報』第17号、津田塾大学、1985年3月 ② 「植民地アルジェリアにおける行政町村の形成」『歴史学研究』第633号、青木書店、1992年6月 ③ 「19世紀初頭の地中海と“アルジェリア危機” — トルコ政権崩壊の過程に関する — 考察 —」『歴史学研究』第692号、1996年12月 ④ 「アルジェリアにおける1863年元老院決議(土地法)の適用と農村社会の再編 — 植民地行政町村の形成をめぐる —」『国際社会学研究所紀要』第8号、2001年3月 ⑤ 「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯(覚書) — フランス・マグレブ・日本をつなぐ人物像 —」『人間と社会 — 知識人の時代批判』吉備国際大学社会学部共同研究成果報告書、2003年3月 ⑥ 「アルジェリアにおける1873年ワルニ工法と私的土地所有権の成立」『国際関係学研究』第31号、津田塾大学、2005年3月 ⑦ 「アルジェリア独立戦争と農村社会の変動 住民再編成の政策をめぐる —」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第15号、2005年3月 ⑧ 「アルジェリア『内戦』の傷跡 — 2005年春の旅から —」津田塾大学『国際関係研究所報』第41号、2006年12月 ⑨ 「Mediterranean Powers and the ‘Algerian Crisis’ at the Beginning of the 19th Century」『上智アジア学』第24号、2006年12月 ⑩ 「人の移動からみるフランス・アンジェリア関係史—脱植民地化と『引揚者』を中心に—」『歴史学研究』No846、2008年10月 ⑪ 「アルジェリアにおける植民地支配の構造と展開—フランスの土地政策と農村社会の変容—津田塾大学、2014年2月(博士論文)
所属学会	日本中東学会、日本アフリカ学会、歴史学研究会、日本社会学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴
学位
学歴

ササキ ヒロシ
佐々木 寛 SASAKI Hiroshi
男
1966年6月29日
教授 (2008年4月)
E-mail : shiroshi@nuis.ac.jp
1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
法学修士 (中央大学、1993年3月)
1996年～ 1998年 立教大学法学部助手
1998年～ 2000年 日本学術振興会特別研究員 (PD)・中央大学法学部兼任講師
2000年～ 2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師 (～ 2008年 同大准教授)
2008年～ 2009年 カルフォルニア大学バークレー校客員研究員

研究分野
主要業績

民主主義理論・安全保障理論
著書・論文・訳書
①「平和研究の理論的地平 — 21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号 (日本平和学会)、1996年6月
②「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題 — D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号 (立教大学)、1998年2月
③「『地球社会』と民主主義原理 — 『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号 (立教大学)、2000年4月
④「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号、2000年8月
⑤『平和研究 第26号 — 新世紀の平和研究』(早稲田大学出版部) (編著)、2001年11月
⑥「Atom-Politics in East Asia : Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号 (新潟国際情報大学)、2002年3月
⑦「世界政治と市民 — 現代コスモポリタニズムの位相」高畠通敏編『現代市民政治論』(世織書房)、2003年2月
⑧「イラク戦争と『安全保障』概念の基層」古城利明編『世界システムとヨーロッパ』(中央大学出版部)、2005年3月
⑨『東アジア安全保障の新展開』(明石書店) (共編著)、2005年4月
⑩「『戦争』を再考する」岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』(法律文化社)、2005年5月
⑪『東アジア〈共生〉の条件』(世織書房) (編著)、2006年3月
⑫「『平和』と『コミュニティ』 — グローバル化時代の『暴力』を越えて」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ — 平和研究の新次元』(明石書店)、2007年9月
⑬「『新しい戦争』と日本 — 漂流する『安全保障』」岩崎稔他編『戦後日本スタディーズ③』(紀伊國屋書店)、2008年12月
⑭ P.ハースト『戦争と権力』(岩波書店) (単訳)、2009年2月
⑮「現代の平和主義」千葉眞編『平和の政治思想史』(おうふう)、2009年8月
⑯『地方自治体の安全保障』(明石書店) (共編著)、2010年8月
⑰「『グローバル・シティズンシップ』の射程」『立命館法学』第333・334号 (立命館大学)、2011年3月
⑱「政治理論における〈核〉の位置づけに関する若干の考察 — 『3・11』後の政治学のために」『立法法学』第86号 (立教大学)、2012年1月
⑲「『エネルギー・デモクラシー』の挑戦 — 新潟県原発検証委員会について」『日本原子力学会誌』Vol.59、No.12、2017年
⑳「〈文明〉転換への挑戦 — エネルギー・デモクラシーの論理と実践」『世界』2020年1月号 など。

所属学会

日本国際政治学会 (将来構想委員、2013年研究大会実行委員長)
日本平和学会 (第21期会長) 日本政治学会 (企画委員) など。



氏名	サワグチ シンイチ 澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi
性別	男
生年月日	1959年2月10日
職名	教授 (2005年4月)
連絡方法	E-mail : sawashin@nuis.ac.jp
学歴	1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業 1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得
学位	博士 (地理学) 明治大学、2001年3月
職歴	1990～1992年 日本学術振興会特別研究員 1992～1996年 明治大学文学部他 非常勤講師 1996年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師 2005年 同上 (現 国際学部) 教授
研究分野	①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。 ②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。 ③新潟砂丘と潟の地形学的研究
主要業績	著書 ①『みんなの潟学』(分担執筆) 新潟市潟環境研究所、(2018年) ②『デジタルブック最新第四紀学(改訂版)』(分担執筆) 第四紀学会、(2013年) ③『新旧地形図で見る新潟県の百年 — 明治～平成の変貌 — 』(分担執筆) 新潟日報事業社、(2010年) ④『山に学ぶ — 歩いて観て考える山の自然』(編著) 古今書院、(2005年) ⑤『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会、(2005年) 論文 ①「新潟市の砂丘地にみられる湖沼とその成因」(平成29年度新潟市潟環境研究所研究成果報告書、2018年) ②「新潟砂丘西南端地域の地形」(平成28年度新潟市潟環境研究所研究成果報告書、2017年) ③「アラスカ中部イーグルサミットにおける地温と凍上および斜面物質移動の観測」(地学雑誌、120-6.2012年) ④「北上川上流域における周氷河インポリューション形成の年代」(季刊地理学58-4.2007年) ⑤「南アルプス大聖寺平の大型ソリフラクションロープ」増澤弘武編『南アルプスの自然』所収.2007年、静岡県 ⑥「Present-day Periglacial Environments in Central Spitsbergen,Svalbard」(Geographical Review of Japan,77-5.2004年) その他 ①「じゅんさい池ガイドブック」新潟市環境政策課・新潟市東区役所 (2021年) ②「十二潟ガイドブック」新潟市環境政策課 (2020年) ③「異人池」について 新潟市潟環境研究所 ニュースレター、第10号 (2019年) ④「赤塚ガイドブック — まち歩き&砂丘歩き — 」新潟市西区農政商工課、2018年 ⑤「佐潟と御手洗潟は砂丘湖ではない！」新潟市潟環境研究所 ニュースレター、第9号 (2018年) ⑥「佐潟と赤塚砂丘を一体化したレクリエーションゾーン構想」新潟市潟環境研究所 ニュースレター、第6号 (2017年)
所属学会 その他	日本地理学会、日本第四紀学会、東北地理学会、東京地学協会 ・1990～1992年および1994年夏期、北極圏スバルバル諸島調査 ・2001、2002年夏期、カナダ北極圏エルズミア島・アクセルハイベルグ島調査。 ・2004年、アラスカ大学フェアバンクス校客員研究員 ・2016年～2018年、新潟市潟環境研究所客員研究員 ・2019年～新潟市里潟研究ネットワーク会議座長



氏名	シン ウンジュ 申 銀珠 SHIN Eunju
性別	女
生年月日	1958年3月4日
職名	教授 (2006年4月)
連絡方法	E-mail : shin@nuis.ac.jp
学歴	韓国外国語大学及び大学院 (修士課程) 修了後、 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了
学位	博士 (人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月)
職歴	日本学術振興会外国人特別研究員、 名古屋大学言語文化部非常勤講師 (1998.4 ~ 2001.3)
研究分野	韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相について。また、日本統治期の朝鮮を描いた韓国と日本の文学作品及び〈在日文学〉について研究を進めている。
主要業績	<p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「韓国近代文学の中の日本文学 — 『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として —」 (単著) 『人間文化研究年報』第16号 (お茶の水女子大学、1993.2) ② 「朱耀翰と川路柳虹」 (単著) 『淵叢』第2号 (淵叢の会、1993.3) ③ 「〈朝鮮〉から見た中野重治 — 植民地知識人の自画像を求めて —」 (単著) 『国際日本文学研究集會會議録』第17回 (国文学研究資料館、1994.10) ④ 「韓国における高橋新吉」 (単著) 『国文』第82号 (お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1) ⑤ 「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」 (単著) (韓国語) 『日語日文学研究』第28輯 (韓国日語日文学会、1996.6) ⑥ 「中野重治と韓国プロレタリア文学運動 — 林和、李北満との関係を中心として —」 (単著) 『日本研究』第12号 (韓国外国語大学校日本研究所、1998.2) (韓国語) ⑦ 「日本統治期の韓国人作家と日本語」 (単著) 『日本近代文学』第63集 (日本近代文学会、2000.10) ⑧ 「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』 — 民族・民族問題をめぐって —」 (単著) 『淵叢』第10号 (淵叢の会、2001.8) ⑨ 「中野重治、詩的精神の憤怒の行方 — 〈君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍る〉をめぐって」 (単著) 『国文学』第47巻1号 (學燈社、2002.1) ⑩ 「ソウルの異邦人、その周辺 — 李良枝『由熙』をめぐって —」 (単著) 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第7号 (2004.3) ⑪ 「中野重治と日本の天皇制」 (単著) 『日本近代文学 — 研究と批評4』 (韓国日本近代文学会、2005.10) (韓国語) ⑫ 「朴景利『土地』に描かれた日本・日本人像」 (単著) 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号、(2006.6) ⑬ 「予感する〈女〉たち — 韓国語訳『ジョゼと虎と魚たち』をめぐって —」 (単著) 『国文学解釈と鑑賞 別冊 田辺聖子』 (至文堂、2006.7) <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 玄月『蔭の棲みか』 (文学トンネ、2000.11) (共訳) ② 玄月『悪い噂』 (文学トンネ、2002.11) (共訳) ③ 堀江敏幸『熊の敷石』 (文学トンネ、2005.3) (共訳) ④ 平野啓一郎『滴り落ちる時計たちの波紋』 (文学トンネ、2008.2) (共訳) ⑤ 平野啓一郎『あなたが、いなかった、あなた』 (文学トンネ、2008.9) (共訳)
所属学会	日本近代文学会、朝鮮学会、お茶の水女子大学国語国文学会、韓国日本近代文学会、韓国日本言語文化学会、Association for Asian Studies (AAS)
その他	ソウル大学奎章閣韓国学研究院客員研究員 (2013 ~ 2014)



氏名	アレクサンドル プラーソル Alexander Prasol
性別	男
生年月日	1952年10月26日
職名	教授（2000年4月）
連絡方法	E-mail : prasol@nuis.ac.jp
学歴	1975年 極東国立大学（ロシア）日本語文学科卒業 1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程修了
学位	文学博士（PHD in Linguistics）モスクワ国立大学、1979年12月 歴史博士（Doctor of History）極東国立大学、2005年
職歴	1978～1980年 極東大学東洋学部助手 1980～1985年 同学部専任講師 1985～1991年 同学部助教授 1991～1994年 新潟大学教養部助教授 1994～1999年 新潟大学人文学部助教授
研究分野	大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア人の目で見た日本、日本人の目を見たロシア、両国社会が直面する諸問題を考える。
主要業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①『日本語会話』（共著）極東大学出版部（ロシア） 1984年、172頁 ②『日本語会話における終助詞』（単著）極東大学出版部 1989年、1999年出版（ロシア）、170頁 ③『日本教育の成立』（8～19世紀）（単著）ダリナウカ出版（ロシア）、2001、391頁 ④「明治時代の教育」（1868-1912）（単著）ダリナウカ出版（ロシア）、2002、358頁 ⑤「自治体外交」市岡政夫著（ロシア語単訳）ダリナウカ出版（ロシア）、2004、300頁 ⑥『日本：時代の相貌 — 現代社会の伝統とメンタリティー』（単著）ナタリス出版（ロシア）、2008、360頁 ⑦「Modern Japan: Origins of the Mind. Japanese Traditions and Approaches to Contemporary Life.」（単著英語版）World Scientific（Singapore）、2010、352p. ⑧「江戸 — 東京往復。徳川時代の文化・生活様式・習俗」（単著）モスクワ、アストレリ・コルプス出版（ロシア）、2012、528p. ⑨ 日本教育史（単著）Palmarium Academic（ドイツ）、2014、600p. ⑩ 日本語文型（単著）VKN（ロシア）、2014、416p. ⑪ 天下統一 — 織田信長 VKN（ロシア）、2015、431p. ⑫ 天下統一 — 豊臣秀吉 VKN（ロシア）、2016、458p. ⑬ 天下統一 — 徳川家康 VKN（ロシア）、2017、496p. ⑭ 人物に見る歴代徳川将軍 VKN（ロシア）、2018、448p. ⑮ 14世紀における日本権力構造の変容 VKN（ロシア）、2020、253p. <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「Military-Political Organization and Social Structure of 16th Century Japan」（単著）、Far Eastern Federal University、2013. ②「Some Features of the Criminal Situation and Penal System of Japan」 NUIS 国際学部紀要 第4号、2019.4 pp 55-72
所属学会	ヨーロッパ日本研究学会（European Association for Japanese Studies）



氏性
生年
職月
連日
学絡
方名
法
学歴

ヤグチ ユウコ
矢口 裕子 YAGUCHI Yuko
女

1961年2月22日
教授 (2011年4月)

E-mail : yaguti@nuis.ac.jp

1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業

1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学

文学修士 (法政大学、1991年3月)

東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4 ~ 2001.3)

アメリカン大学パリ校客員研究員 (2015.8 ~ 2016.2)

ニューヨーク市立大学客員研究員 (2016.3 ~ 2016.8)

学
職位
歴

受賞歴
研分業
主要業
績

1996年7月14日第3回女性学研究国際奨励賞

アメリカ文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)

著書

『東アジア〈共生〉の条件』世織書房、(2006.3) 共著

『憑依する過去—アジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』

金星堂 (2014.3) 共著

『作家ガイド アナイス・ニン』彩流社、(2018.5) 共著

『アナイス・ニンのパリ、ニューヨーク—旅した、恋した、書いた』水声社、(2019.1)

A Café in Space: The Anais Nin Literary Journal, Anthology 2003-2018, Sky Blue Press (2019.2) 共著

Anais Nin's Paris Revisited: The English & French Bilingual Edition 水声社 (2021.3)

論文

① “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)” 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁)、(1992.3)

② “Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)” 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁)、(1993.3)

③ 「Sam Shepard, *Fool for Love* — カウボーイが女を愛する時」法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁)、(1994.2)

④ 「Sam Shepard, *A Lie of the Mind* — 新しいイヴの歌」日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁)、(1996.3)

⑤ “The Text That Is the Writer—Anais Nin's Diary” *Anais—An International Journal*. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60), (1998.3)

⑥ “The Imaginary Father” *Anais—An International Journal*. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60), (2000.3)

⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁)、(2000.6)

⑧ 「性/愛の家のスパイ—Henry&Juneから読み直す Anais Nin」日本英文学会『英文学研究』第80号 (13-25頁)、(2003.10)

⑨ “Twittering Machine of Paradise—Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters” *A Cafe in Space: Anais Nin Literary Journal*. Vol.1. Sky Blue Press (pp.106-17), (2003.11)

⑩ 「アナイス・ニンの娘たち—冥王まさ子と矢川澄子のグリンプス」『新潟ジェンダー研究』第5号 (pp.5-12)、(2004.2)

⑪ 「ロマンティック・クィア—草野マサムネ ジェンダー試論」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号 (pp.39-50)、(2005.3)

⑫ “A Spy in the House of Sexuality: Rereading Anais Nin through *Henry & June*” *A cafe in Space: Anais Nin Literary Journal*. Vol.4. Sky Blue Press (pp.22-34), (2007.3)

⑬ 「アナイス・ニンの「ジューナ」—『人工の冬』パリ版から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号 (pp.57-60)、(2007.5)

⑭ 「アナイス・ニン『人工の冬』パリ版という旅」『水声通信』第28号 (pp.23-35)、(2009.5)

⑮ 「想像の父を求めて—『インセスト』論への前奏曲」『水声通信』第31号 (pp.135-144)、(2009.9)

⑯ “Anais Nin's Buried Child : Translator's Afterword to the Japanese Version of *The Winter's Artifice* (the Paris Edition, 1939)” *Nexus : The International Henry Miller Journal* Vol.10 (pp.135-46), (2013.9)

⑰ “*Winter of Artifice: An Odyssey—Anais Nin's Lost Work,*” *A Cafe in Space: The Anais Nin Literary Journal*, vol.11 (2014.2). pp.32-40.

⑱ “Singing Silence on the Planet with Maxine Hong Kingston's, *The Woman Warrior,*” 『新潟国際情報大学国際学部紀要』第3号 (pp.29-40), (2018.4)

所属学会

日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本女性学会、日本ヘンリー・ミラー協会
アナイス・ニン研究会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

ヨシザワ フミトシ
吉澤 文寿 YOSHIKAWA Fumitoshi
男

1969年1月7日
教授 (2011年4月)

E-mail : yosizawa@nuis.ac.jp

1992年3月 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程卒業

1995年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了

2004年7月 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了

学位
学歴

社会学博士 (一橋大学、2004年7月)

2000年3月～2002年2月 韓国湖南大学校外国語学部日本語科専任講師

2002年10月～2006年3月 東京学芸大学・青山学院大学・関東学院大学・大東文化大学・明星大学非常勤講師

2006年4月～新潟国際情報大学情報文化学部 准教授

2014年10月～2015年3月 東京大学大学院情報学環客員研究員

2016年8月～2017年7月 米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校東アジア太平洋研究センター客員研究員

研究分野
主要業績

朝鮮現代史、日朝関係史。

著書

- ① 『新装新版』戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐる』クレイン、2015年 (単著)
- ② 『日韓会談1965 戦後日韓関係の原点を検証する』高文研、2015年 (単著)
- ③ 『現代韓日問題の起源 韓日会談と戦後韓日関係』一潮閣(ソウル)、2019年 (李賢周訳、単著)
- ④ 『歴史認識から見た戦後日韓関係「1965年体制」の歴史学・政治学的考察』社会評論社、2019年 (編著)
- ⑤ 『五〇年目の日韓つながり直し：日韓請求権協定から考える』社会評論社、2016年 (編著)
- ⑥ 永原陽子編『植民地責任論—脱植民地化の比較史』青木書店、2009年 (共著)
- ⑦ 国民大学校日本学研究所編『議題で見た韓日会談〔外交文書公開と韓日会談の再照明2〕』ソニン (ソウル)、2010年 (共著)
- ⑧ 和田春樹ほか編『ベトナム戦争の時代1960—1975年 (岩波講座東アジア近現代通史 第8巻)』岩波書店、2011年 (共著)
- ⑨ 李鍾元ほか編『歴史としての日韓国交正常化Ⅱ 脱植民地化編』法政大学出版局、2011年 (共著)
- ⑩ 西野瑠美子ほか編『「慰安婦」バッシングを越えて「河野談話」と日本の責任』大月書店、2013年 (共著)
- ⑪ 東北亜歴史財団編『韓日協定50年史の再照明Ⅲ—日帝植民地責任判決と韓日協定体制の再照明—』東北亜歴史財団 (ソウル)、2014年 (共著)
- ⑫ 安藤正人、吉田裕、久保亨編『歴史学が問う 公文書の管理と情報公開 特定秘密保護法下の課題』大月書店、2015 (共著)
- ⑬ 木宮正史、李元徳編著『日韓関係史1965—2015 I 政治』東京大学出版会、2015 (共著)
- ⑭ 李元徳、木宮正史編著『韓日関係史1965—2015 I 政治』歴史空間 (ソウル)、2015 (共著)
- ⑮ 韓日関係史学会編『韓日修交50年相互理解と協力のための歴史的再検討1』景仁文化社 (ソウル)、2017年 (共著)
- ⑯ Rumiko Nishino, Puja Kim, Akane Onozawa ed (2018), Denying the Comfort Women Japanese State's Assault on Historical Truth, London: Routledge (共著)
- ⑰ 『日韓の歴史問題をどう読み解くか—徴用工・日本軍「慰安婦」・植民地支配』新日本出版社、2020年 (共著)

論文・その他

- ① 「朴正熙政権期における対日民間請求権補償をめぐる国会論議」(『現代韓国朝鮮研究』15、2015年11月)
- ② 吉岡古典『日韓基本条約が置き去りにしたもの 植民地責任と真の友好』大月書店、2014年 (「序文」「解説」を執筆)
- ③ 浅野豊美・長澤裕子・吉澤文寿・金鉉洙・薦田真由美共編『日韓国交正常化問題資料』現代史料出版、2010～2020年

所属学会

歴史学研究会、歴史科学協議会、朝鮮史研究会、日本平和学会、現代韓国朝鮮学会 Association for Asian Studies (AAS) など



氏名 熊谷 卓
性別 男
生年月日 1969年1月25日
職名 准教授 (2004年4月)
連絡方法 E-mail: takuk@nuis.ac.jp
学歴 1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業
1995年~1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師
1997年~1999年 広島大学法学部助手
1998年~1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師
2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師
2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師
2015年~2018年 広島大学法学部客員准教授
2019年~2020年 ニュージーランド・国立オークランド大学法科大学院客員准教授

研究分野 国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益（主権）を調整しつつ、国際社会の共通利益（共通の保護法益）を擁護しているのかということを中心に現在の研究のテーマとしている。

主要業績

クマガイ タク

熊谷 卓 KUMAGAI Taku

男

1969年1月25日

准教授 (2004年4月)

E-mail: takuk@nuis.ac.jp

1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業

2000年8月 広島大学大学院社会科学研究所後期博士課程法律学専攻単位取得退学

修士 (法学) (広島大学、1994年3月)、博士 (法学) (広島大学、2018年3月)

1995年~1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師

1997年~1999年 広島大学法学部助手

1998年~1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師

2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師

2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師

2015年~2018年 広島大学法学部客員准教授

2019年~2020年 ニュージーランド・国立オークランド大学法科大学院客員准教授

国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益（主権）を調整しつつ、国際社会の共通利益（共通の保護法益）を擁護しているのかということを中心に現在の研究のテーマとしている。

著書

①『ファンダメンタル法学講座 国際法』（共著）（不磨書房、2002年）

論文

①「欧州連合（EU）と国際テロリズム」1997年2月『広島法学』20巻3号 203-235頁。

②「犯罪人引渡と国際テロリズム—フランス共和国の立法および判例から」1998年2月『広島法学』21巻3号 95-133頁。

③「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制（一）（二・完）」1999年2月 1999年3月『広島法学』22巻3号 37-60頁 22巻4号 117-138頁。

④「国家テロリズムと国際法—ロッカビー事件を手がかりとして」2002年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』5号 115-154頁。

⑤「誰がテロリストを裁くのか？—合衆国軍事委員会と国際人権法—」2003年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』6号 87-101頁。

⑥「判例紹介 テロリストと人身保護請求の可否—グアンタナモの被拘束者に関する5つの裁判例から」2004年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』7号 119-159頁。

⑦「判例紹介 対テロ戦争と人権—グアンタナモの被拘束者をめぐるアメリカ合衆国連邦最高裁の判断」2005年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』8号 119-133頁。

⑧「対テロ戦争と国際人権法—グアンタナモの被拘束者に対する市民的および政治的権利に関する国際規約（自由権規約）の適用可能性—」2005年12月『広島法学』29巻2号 81-116頁。

⑨「テロリズムを契機とする国家の国際法上の責任に関する序論的考察」2008年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』11号 15-29頁。

⑩「テロリズムと人権—テロ被疑者の処遇を素材として—」2009年8月『国際法外交雑誌』108巻2号 91-119頁。

⑪「テロとは何か — 国連包括的テロ防止条約における『テロリズム』の位置づけ—」2010年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』13号 63-70頁。

⑫「国際人権法と死刑」『法律時報』82巻7号（日本評論社、2010年6月）48-52頁。

⑬「『対テロ戦争』へのジュネーブ諸条約の適用—ハムダン事件」『国際法判例百選（第2版）』（有斐閣、2011年）。

⑭「国際テロリズムと条約の役割 — 引渡または訴追の規定を中心に —」2013年3月『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』16号 65-80頁。

⑮「判例研究 イラン人に対するの国立大学附置研入学不許可違憲訴訟 [東京地裁平成23.12.19判決]」2013年6月『季刊教育法』（エイデル研究所）第177号100-106頁。

⑯「テロリズムと国際人道法の関係に関する—考察（戦争と平和の法的構想）」2013年10月『平和研究』（日本平和学会）73-101頁。

所属学会

世界法学会・国際法学会・米国国際法学会・国際人権法学会



氏名	コバヤシ イオリ 小林 伊織 Peter Iori Kobayashi
性別	男
生年月日	1973年2月19日
職名	准教授 (2021年4月)
連絡方法	Email : iorik@nuis.ac.jp
学歴	2009年6月 PhD Candidate in English Language and Literature, Ateneo de Manila University, Philippines 2000年6月 MA in East Asian Studies, National Chengchi University, Taiwan 1995年7月 BA (Hons) in South East Asian Studies, University of Hull, UK
学位	MA in East Asian Studies
学職	2003年2月—2015年7月：銘伝大学（台湾）英語センター専任講師 2002年9月—2003年6月：台北ヨーロッパ・スクール国際バカロレア日本文学教師 1998年9月—2002年9月：台湾TVBS（無線衛星テレビ台）国際ニュースセンター記者
研究分野	World Englishes; English as a Lingua Franca; Language Policy and Planning; Southeast Asian Studies; Chinese Diaspora Studies
主要業績	著書 Kobayashi, P. I. (2020). English in Taiwan. In K. Bolton, B. Werner, & A. Kirkpatrick (Eds.), <i>The Handbook of Asian Englishes</i> (pp.547-567). Hoboken, NJ: Wiley-Blackwell. https://doi.org/10.1002/9781118791882.ch23 論文 ① Kobayashi, I. (2008). "They speak 'incorrect' English" : Understanding Taiwanese Learners' Views on L2 Varieties of English. <i>Philippine Journal of Linguistics</i> , 39, 81-98. ② Kobayashi, I. (2008). Expanding Circle learners in the Outer Circle: Understanding Taiwanese learners' views on L2 varieties of English. In <i>Proceedings for 2008 international conference and workshop on TEFL & applied linguistics</i> . Taipei, Taiwan: Crane. ③ Kobayashi, I. (2009). Display of Malaysian English in Shirley Geok Lin Lim's <i>Sister Swing</i> . In <i>Proceedings for 2009 international conference and workshop on TEFL & applied linguistics</i> . Taipei, Taiwan: Crane. ④ Kobayashi, I. (2012). "American English as an International Language" : Taiwanese views on English, from an EIL / ELF perspective. In <i>Proceedings for 2012 international conference and workshop on TEFL & applied linguistics</i> . Taipei, Taiwan: Crane. ⑤ Kobayashi, P. I. (2020). American English phonological features on Singapore radio. <i>NUIS Journal of International Studies</i> , 5, 15-26. ⑥ Kobayashi, P. I. (2020). The rise of China and local ethnic Chinese in Cambodia. <i>Ateneo Chinese Studies Program Lecture Series</i> , 7, 1-24.
所属学会	International Association of World Englishes (IAWE) The Japanese Association for Asian Englishes (JAF AE) The Japan Association for Language Teaching (JALT), Bilingualism SIG The Japan Association of College English Teachers (JACET), ELFSIG



氏名	サトウ ワカナ 佐藤 若菜 SATO Wakana
性別	女
生年月日	1983年2月4日
職名	准教授(2019年4月)
連絡方法	E-mail: wsato@nuis.ac.jp
学歴	2004年9月～2005年6月 国立台湾大学 大学間協定交換留学 2005年7月～8月 国立台湾海洋大学 留学 2007年3月 東北大学農学部生物生産学科海洋生物科学系 卒業 2009年3月～2011年5月 貴州大学西南少数民族語言文化研究所 留学 2016年1月 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程(5年一貫制) 博士課程修了・博士学位取得
学位	博士(地域研究、京都大学、2016年1月)
学歴	2013年4月～2015年3月 日本学術振興会特別研究員(DC2・京都大学) 2016年2月～2016年3月 京都大学東南アジア研究所連携研究員
受賞歴	第11回日本文化人類学会奨励賞 受賞(2016年5月)
研究分野	文化人類学、モノ研究、親族研究。現代中国における少数民族の民族衣装を介した社会関係に関する研究。
主要業績	① 『衣装と生きる女性たち：ミャオ族の物質文化と母娘関係』 京都大学学術出版会。2020年2月。 ② 「中国本土・台湾の漢族に関する一九九〇年代以降の親族研究：女性に着目した新たな動き」『社会人類学年報』第44号：131-146。2018年11月。 ③ "Anthropological Studies of China in Japan: Focusing on Studies of Ethnic Minority Groups in Southwest China." Japanese Review of Cultural Anthropology 18(2): 179-184. 2018. 3. ④ 「中国貴州省のミャオ族における民族衣装の物質性：上衣の製作に着目して」『民族藝術』第34号：141-148。2018年3月。 ⑤ "Sympathetic Relationships between Miao Mothers and Daughters as Mediated by Ethnic Costumes: Case Studies from Guizhou Province, China." Déjà Lu. 2017. 2. ⑥ 「身体とともにある食事：中国貴州省農村部の事例から」『Vesta：食文化のひろば』第102号：25-26。2016年4月。 ⑦ 『中国貴州省ミャオ族における民族衣装がつなぐ母娘関係の動態：女性のライフコースと社会経済的变化に着目して』 博士論文。2016年1月。 ⑧ 「衣装がつなぐ母娘の『共感的』関係：中国貴州省のミャオ族における実家・婚家間の移動とその変容」『文化人類学』第79巻3号：305-327。2014年12月。(2016年第11回日本文化人類学会奨励賞受賞論文) ⑨ "Transference of women and Miao's ethnic costumes between the natal and marital families in Guizhou province, China." Proceedings of JSPS Asian Core Program Final Workshop Asian Connections: Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century: 105-112. 2014. 3. ⑩ 「中国の農村における暮らし：貴州省の村で」『歴史地理教育』第807号(増刊号)：8, 77-81。2013年7月。 ⑪ 「高速鉄道建設が中国貴州省の農村に与えた影響について」『アジア・アフリカ地域研究』第12-1号：126-130。2012年9月。
所属学会	日本文化人類学会、民族藝術学会、日本現代中国学会、The Textile Society of America
その他	2011年7月～2012年9月 株式会社資生堂 受託研究者 2016年4月～2019年3月 京都大学東南アジア地域研究研究所連携講師 2018年4月～ 国立民族学博物館共同研究員



氏名
性別
生年月日
職歴
連絡方法

スズキ ユウヤ
鈴木 佑也 SUZUKI Yuya
男
1980年1月26日
准教授 (2020年4月)
E-mail : syuya@nuis.ac.jp

学位
職歴

2003年3月 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業
2006年3月 東京外国語大学大学院地域文化研究課博士前期課程修了
2014年9月 ロシア国立芸術学研究所Ph. Dコース (準博士課程) 修了
2014年9月 東京外国語大学大学院地域文化研究課博士後期課程満期退学
Ph. D (芸術学、ロシア国立芸術学研究所、2015年4月)
博士 (学術、東京外国語大学、2016年12月)
2014年10月～ 東京外国語大学非常勤講師
2014年10月～2019年3月 横浜国立大学非常勤講師
2015年 4月～ 朝日カルチャーセンター嘱託講師
2015年 4月～2020年3月 東京理科大学非常勤講師
2016年 4月～2019年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD・横浜国立大学)
2017年 9月～2018年3月 早稲田大学非常勤講師
2018年 4月～2020年3月 上智大学非常勤講師
2018年 4月～2020年3月 東京工業大学非常勤講師

研究分野

ロシア・ソ連建築史/美術史、表象文化論
主に1930-60年代のソ連における大型建築プロジェクトや都市計画、対外建築交流、政治と建築の相関性について研究している。

主要業績

著書
沼野充義他編『ロシア文化辞典』丸善出版会、2019年 (共著)

論文

- ① 「ソ連建築界における新たな段階: 第5回世界建築家連合(UIA)国際会議モスクワ開催に関する考察」『スラブ文化研究』第16号、2019年、22-43頁
- ② 「機能的都市と社会主義都市—近代主義建築と全体主義期ソヴィエト建築の相互関係の導入として」『アヴァンギャルドの知覚』東京外国語大学出版、2017年、56-76頁
- ③ 「1930年代から1950年代のソヴィエト絵画作品に見られる建築プロジェクト『ソヴィエト宮殿』とスターリンの関係性」『声をさがしつづけて—和田忠彦先生退任記念論文集』東京外国語大学出版、2016年、259-276頁
- ④ 「建築プロジェクト・ソヴィエト宮殿の全体像と建設に関する研究: 狂想と国家を双肩に担ったモニュメント」東京外国語大学博士論文、2016年
- ⑤ Советский павильон на всемирной выставке в Нью Йорке в 1939 г. : Советский государственный стиль на основе взаимосвязи с американской архитектурой (1939年のニューヨーク万博におけるソヴィエトパビリオン: アメリカ建築との交流を基にしたソヴィエト国家建築様式について) // Разнообразие русской культуры 20-го века, Tokyo University of Foreign Studies, 2016, C. 49-56
- ⑥ 「国家建築様式からの逸脱または跳躍—建築競技設計後におけるソヴィエト宮殿の「アメリカ化」」『スラブ文化研究』第13号、2015年、47-69頁
- ⑦ "From Inter-Collision to Transformation of the "National Architectural Style": Suprematism and Soviet Art-Deco in the 1937 Paris International Expositions" *Passaggi corporei: percepire, scrivere, incarnare il mutamento*, 2015, pp. 11-22 (Tokyo University of Foreign Studies)
- ⑧ "The Transformation of the Soviet Architectural World in the Totalitarian Era through Contact with American Architecture" *Tradition, Translation, Transformation*, 2015, pp. 59-69 (Tokyo University of Foreign Studies)
- ⑨ Конкурс на Дворец Советов 1930-х гг. в Москве и международный архитектурный контекст (1930年代におけるモスクワのソヴィエト宮殿競技設計と国際建築の状況について) (国立芸術学研究所Ph. D論文、2014年)
- ⑩ Формирование «нового стиля» в ходе разработки окончательного проекта Дворца Советов. (建築プロジェクト『ソヴィエト宮殿』の最終設計段階における「新たな様式」の形成について) // Вестник СПбГУ, вып. 4, 2014, C. 126-139

その他

- ① 「地震と社会主義リアリズム-ロシアソ連における建築と表象文化(2)」『不動産経済FAX-LINE』No.1264、不動産経済研究所、2020年、5-6頁
- ② 「自然災害と青銅の騎士-ロシアソ連における建築と表象文化(1)」『不動産経済FAX-LINE』No.1250、不動産経済研究所、2019年、3-5頁
- ③ 「現代日本写真が伝える眼差しの方法——「記憶と光 日本写真1950-2000 パリ・ヨーロッパ写真館所蔵 大日本印刷寄贈コレクションより」モスクワ展」『artscape』平成30年6月5日号、大日本印刷、http://artscape.jp/report/topics/10146545_4278.html

所属学会

日本ロシア文学会、スラブ人文学会



氏名 瀬戸 裕之
性別 男
生年月日 1970年5月25日
職 准教授 (2016年9月)
連絡方法 E-mail : setohiro@nuis.ac.jp
学歴 1994年3月 新潟大学法学部 卒業
1996年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士前期課程修了
1998年10月～2001年8月 ラオス国立大学法律政治学部 (留学)
2005年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士後期課程満期退学

学位 博士 (学術) (名古屋大学, 2009年3月)

職歴 2004年4月～2010年3月 愛知淑徳大学非常勤講師
2005年10月～2009年3月 愛知県立大学非常勤講師
2005年4月～2010年3月 岐阜市立女子短期大学非常勤講師
2006年4月～2010年9月 名古屋外国語大学非常勤講師
2008年4月～2008年9月 名古屋大学非常勤講師
2009年4月～2010年3月 名城大学非常勤講師
2010年9月～2012年3月 京都大学東南アジア研究所機関研究員
2011年4月～2013年8月 立命館大学非常勤講師
2012年4月～2013年8月 京都大学東南アジア研究所研究員
2012年4月～2013年8月 京都大学非常勤講師
2012年4月～2013年8月 愛知県立大学非常勤講師
2013年4月～2013年8月 龍谷大学非常勤講師
2013年8月～2015年9月 名古屋大学大学院法学研究科特任講師 (ラオス・日本法教育研究センター勤務; 在ラオス)
2015年10月～2016年8月 名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院・特任准教授 (法学; ラオスサテライトキャンパス事務所勤務), ラオス・日本法教育研究センター講師 (法研究) を兼任
2016年4月～2016年8月 名古屋大学ラオス海外事務所長を兼任
受賞歴 2016年7月 ジェトロ・アジア経済研究所第37回「発展途上国研究奨励賞」受賞
2017年8月 ラオス人民民主共和国「友好勲章」受章
研究分野 国際関係論, 比較政治学, 東南アジア地域研究 (ラオス地域研究)
主要業績 論文

セト ヒロユキ

瀬戸 裕之 SETO Hiroyuki

男

1970年5月25日

准教授 (2016年9月)

E-mail : setohiro@nuis.ac.jp

1994年3月 新潟大学法学部 卒業

1996年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士前期課程修了

1998年10月～2001年8月 ラオス国立大学法律政治学部 (留学)

2005年3月 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士後期課程満期退学

博士 (学術) (名古屋大学, 2009年3月)

2004年4月～2010年3月 愛知淑徳大学非常勤講師

2005年10月～2009年3月 愛知県立大学非常勤講師

2005年4月～2010年3月 岐阜市立女子短期大学非常勤講師

2006年4月～2010年9月 名古屋外国語大学非常勤講師

2008年4月～2008年9月 名古屋大学非常勤講師

2009年4月～2010年3月 名城大学非常勤講師

2010年9月～2012年3月 京都大学東南アジア研究所機関研究員

2011年4月～2013年8月 立命館大学非常勤講師

2012年4月～2013年8月 京都大学東南アジア研究所研究員

2012年4月～2013年8月 京都大学非常勤講師

2012年4月～2013年8月 愛知県立大学非常勤講師

2013年4月～2013年8月 龍谷大学非常勤講師

2013年8月～2015年9月 名古屋大学大学院法学研究科特任講師 (ラオス・日本法教育研究センター勤務; 在ラオス)

2015年10月～2016年8月 名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院・特任准教授 (法学; ラオスサテライトキャンパス事務所勤務), ラオス・日本法教育研究センター講師 (法研究) を兼任

2016年4月～2016年8月 名古屋大学ラオス海外事務所長を兼任

受賞歴

2016年7月 ジェトロ・アジア経済研究所第37回「発展途上国研究奨励賞」受賞

2017年8月 ラオス人民民主共和国「友好勲章」受章

研究分野

国際関係論, 比較政治学, 東南アジア地域研究 (ラオス地域研究)

主要業績

論文

- ① 瀬戸裕之・河野泰之 (編), 2020.『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略—避難民・女性・少数民族・投降者からの視点』明石書店.
- ② 瀬戸裕之, 2019.「司法省元高官の視点からみるラオス現代史—フィ・ボンセナー博士の経験から—」『新潟国際情報大学国際学部紀要』第4号, 21-42頁.
- ③ 瀬戸裕之, 2019.「2015年のラオス憲法改正に関する一考察—人権関連の法規定を中心に—」『社会体制と法』第16・17合併号, 32-52頁.
- ④ 瀬戸裕之, 2016.「1991年憲法制定前におけるラオス地方議会法制の変遷—1988年地方人民議会選挙とその帰結を中心に—」『アジア法研究』第9号, 241-260頁.
- ⑤ 瀬戸裕之, 2015.『現代ラオスの中央地方関係—県知事制を通じたラオス人民革命党の地方支配—』京都大学学術出版会.
- ⑥ 瀬戸裕之, 2014.「ラオスの中央集権化と地方分権化に関する一考察—ヴィエンチャン県の開発と治安のバランス—」鈴木基義編著『ラオスの開発課題』JICAラオス事務所, 331-366頁.
- ⑦ 河野泰之, 横山智, 田中耕司, 瀬戸裕之, 2011.『現代ラオス社会・環境の変化と継続性—2011年8月のインタビュー記録』Kyoto Working Papers on Area Studies, No. 122, 京都大学東南アジア研究所.
- ⑧ 瀬戸裕之, 2010.「ラオス人留学生の協力による法整備支援ワークショップ」『ICD NEWS』No.44, 法務省法務総合研究所国際協力部, 35-53頁.
- ⑨ 瀬戸裕之, 2008.「ラオスの中央地方関係における県知事および県党委員会の権限に関する一考察—ヴィエンチャン県工業局の事業形成過程を中心に—」『東南アジア研究』46号 (1), 京都大学東南アジア研究所, 62-100頁.
- ⑩ 瀬戸裕之, 2007.「2003年憲法改正によるラオス司法制度改革—裁判所制度の変更を中心に—」杉浦一孝編『法整備支援と司法改革』2001年度～2005年度科学研究費補助金「アジア法整備支援—体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」研究成果報告書第7巻, 31-103頁.
- ⑪ 瀬戸裕之, 2006.「ラオスにおける法整備支援—現状と課題—」鮎京正訓編『開発援助としての法整備支援』2001年度～2005年度科学研究費補助金「アジア法整備支援—体制移行国に対する法整備支援のパラダイム構築」研究成果報告書第1巻, 75-111頁.

所属学会

国際開発学会, 東南アジア学会, 比較法学会, アジア政経学会, 国際政治学会, アジア法学会, 「社会体制と法」研究会

その他

JICA「ラオス国法律人材育成強化プロジェクト」アドバイザーグループメンバー



氏名
性別
生年
職年
連月
学絡
方学
法方
歴歴

学
位
職
歴

研
究
主
要
分
業
野
績

所
属
学
会

フジモト ナオキ

藤本 直生 Naoki Fujimoto-Adamson
女

1967年11月11日

准教授 (2014年9月)

E-mail : fujimoto@nuis.ac.jp

1991年3月 日本大学文理学部文学専攻 (英文学) (通信教育課程) 卒業

1997年3月 玉川大学文学部教育学科小学校コース (通信教育課程) 修了

1999年9月 University of Essex, UK, Department of Language and Linguistics, MA in English Language Teaching 修了

2011年1月 University of Leicester, UK, School of Education, Doctor of Education (Ed. D.) in Applied Linguistics and TESOL 満期退学

2000年4月 M.A. in English Language Teaching (ELT)

2012年7月 Master of Education (M.Ed.) in Applied Linguistics & TESOL

1991年4月-1998年3月 長野県公立中学校英語教員

2001年10月-2002年3月 University of Leicester, UK, Language Centre 日本語講師

2002年4月-2009年3月 諏訪東京理科大学共通教育センター 非常勤講師

2002年4月-2009年3月 信州豊南短期大学言語コミュニケーション学科 非常勤講師

2009年4月-2013年3月 新潟県立大学セルフ・アクセス・センター 学習指導員

2014年4月-2014年9月 新潟県立大学国際地域学部 非常勤講師

応用言語学、社会言語学、英語教育

著書

- ① Fujimoto-Adamson, N. & Adamson, J. L. (2018). "From EFL to EMI: Hybrid Practices in English as a Medium of Instruction in Japanese Tertiary Contexts", in Key Issues in English for Specific Purposes in Higher Education, Kirkgoz, Y. & Dikilias, K. (eds.), Cham, Switzerland: Springer, pp. 201-221.
- ② Fujimoto-Adamson, N. (2020). Globalisation and Its Effects on Team-Teaching. Newcastle upon Tyne, UK: Cambridge Scholars Publishing.
- ③ Adamson, J. L. & Fujimoto-Adamson, N. (2021). Translanguaging in EMI in the Japanese tertiary context: Pedagogical challenges and opportunities. In Paulsrud, B. A. Tian, Z. & Toth, J. (Eds.). English Medium Instruction and Translanguaging. Bristol, UK: Multilingual Matters.

論文

- ① Fujimoto-Adamson, N. (2003). "Policy and Practice of the Partnership in the Team-teaching Classroom: Ideology and Reality", Bulletin of Shinshu Honan Junior College, Vol. 20, pp. 143-169, Shinshu Honan College, Tatsuno-Town, Japan.
- ② Fujimoto-Adamson, N. (2004). "Localizing Team-teaching Research", Asian EFL Journal, Vol. 6, (2), pp. 1-16.
- ③ Fujimoto-Adamson, N. (2005). "A Comparison of the Roles of Two Teachers in a Team-teaching Classroom in a Japanese Junior High School", The Journal of Asia TEFL, Vol.2, No. 1, pp. 75-101. Korea.
- ④ Fujimoto-Adamson, N. (2005). "Comparing Team-teaching Studies to Formulate an Appropriate Research Methodology", JACET Chubu Journal, Volume 3, pp. 37-57. Nisshin-City, Japan.
- ⑤ Fujimoto-Adamson, N. (2006). "Globalization and History of English Education in Japan", Asian EFL Journal Conference Proceedings, Vol. 8, Issue 3, pp. 259-282. Article 13.
- ⑥ Fujimoto-Adamson, N. (2009). "Comparison of Qualitative and Quantitative Approaches to Classroom-Based Team-Teaching Research", Bulletin of Shinshu Honan Junior College, Vol. 26, pp. 15-48, Shinshu Honan College, Tatsuno-Town, Japan.
- ⑦ Fujimoto-Adamson, N. (2010). "Voices from Team-Teaching Classrooms: A Case Study in Junior High School in Japan", Business Communication Quarterly, Vol. 73 (2), pp. 200-205. USA.
- ⑧ Adamson, J. L., Brown, H., Fujimoto-Adamson, N. (2010). "Co-construction and Understanding of Self-Access through Conversational Narrative", SiSAL (Studies in Self Access learning), 1 (3), pp. 173-188.
- ⑨ Adamson, J. L., Brown, H., Fujimoto-Adamson, N. (2011). "Archiving Self Access: Methodological Considerations", Asian EFL Journal, 13 (2), pp. 11-33.
- ⑩ Adamson, J. L., Brown, H., Fujimoto-Adamson, N. (2012). "Revealing Shifts and Diversity in Understanding of Self Access Language of Learning", Journal of University Teaching and Learning Practice, 9(1), 1-16. University of Wollongong, Australia.
- ⑪ Adamson, J. L. & Fujimoto-Adamson, N. (2012). "Translanguaging in Self-Access Language Advising: Informing Language Policy", SiSAL, 3(1), pp. 59-73. Conference Proceedings of Advising for Language Learner Autonomy at Kanda University of International Studies, 12th November, 2011.
- ⑫ Adamson, J. L. & Fujimoto-Adamson, N. (2015). "'I was in their shoes': Shifting Perceptions of Editorial Roles and Responsibilities", The Journal of the English Scholars Beyond Borders (ESBB), 1 (1), pp. 109-142.
- ⑬ Adamson, J. L. & Fujimoto-Adamson, N. (2016). "Sustaining Review Quality: Induction Mentoring, and Community", The Journal of the English Scholars Beyond Borders (ESBB), 2 (1), pp. 29-57.
- ⑭ Adamson, J. L., Stewart, A., Smith, C., Lander, B., Fujimoto-Adamson, N., Martinez, J., Masuda, M. (2019). "Exploring the Publication Practices of Japan-based EFL Scholars through Collaborative Autoethnography", The Journal of ESBB, 5 (1), pp. 3-31.
- ⑮ Adamson, J. L., Coulson, D. & Fujimoto-Adamson, N. (2019). Supervisory practices in English-medium undergraduate and postgraduate applied linguistics thesis writing: Insights from Japan-based tutors. Asian Journal of Applied Linguistics. 6 (1), pp. 14-17

Asian EFL Journal

The Journal of Asia TEFL

English Scholar Beyond Border

Japan Association for Language Teaching



氏名	ヤマダ ヒロシ 山田 裕史 YAMADA Hiroshi
職名	准教授 (2019年4月)
連絡方法	E-mail : hyamada@nuis.ac.jp
学歴	2000年3月 関西外国語大学外国語学部英米語学科卒業 2005年3月 上智大学大学院外国語学研究科国際関係論専攻博士前期課程修了 2008年3月 上智大学大学院外国語学研究科地域研究専攻博士後期課程満期退学
学位	博士 (地域研究) (上智大学、2011年9月)
職歴	2008年4月～ 2011年3月 上智大学アジア文化研究所特別研究員 (PD) 2008年10月～ 2011年3月 東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム (HSP) 特任研究員 2011年4月～ 2014年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD・東京大学) 2014年10月～ 2015年3月 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構持続的平和研究センター特任研究員
受賞歴	秋野豊ユーラシア基金「第7回秋野豊賞」受賞 (2005年6月)
研究分野	カンボジア研究、国際協力論
主要業績	<ul style="list-style-type: none"> ① 山田裕史 (2021)「人民党長期支配下で台頭するカンボジア版「太子党」アジア経済研究所IDEスクエア (https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2021/ISQ202120_002.html) ② 山田裕史 (2020)「カンボジア人民党による地方支配の構造—地方議会と地方選挙を中心に」山田紀彦編『権威主義体制下の地方議会選挙』(調査研究報告書) アジア経済研究所 ③ 山田裕史 (2019)「開発下のカンボジアにおける人民党支配—国家と社会に浸透する党」『アジア研究』65巻1号, pp. 79-95 ④ 山田裕史 (2016)「人民党一党支配体制下のカンボジア議会の役割—反対勢力の取り込み・分断による体制維持」『アジ研ワールド・トレンド』No. 245, pp. 18-21 ⑤ 山田裕史 (2015)「カンボジア人民党による体制維持戦略—議会を通じた反対勢力の取り込み・分断と選挙への影響」山田紀彦編『独裁体制における議会と正当性—中国、ラオス、ベトナム、カンボジア—』アジア経済研究所, pp. 141-176 ⑥ 山田裕史 (2013)「変革を迫られる人民党一党支配体制」『アジ研ワールド・トレンド』No. 219, pp. 4-7 ⑦ 山田裕史 (2013)「第5期国民議会指導部とフン・セン新内閣の顔ぶれ」『アジ研ワールド・トレンド』No. 219, pp. 8-10 ⑧ 山田裕史 (2013)「内戦後のカンボジアにおける平和構築—国軍改革を中心に」広瀬佳一・湯浅剛編『平和構築へのアプローチ—ユーラシア紛争研究の最前線』吉田書店, pp. 279-299 ⑨ 山田裕史 (2013)「「ひと」が平和をつくる—カンボジア和平交渉における日本の積極外交」福武慎太郎・堀場明子編著『現場〈フィールド〉からの平和構築論—アジア地域の紛争と日本の和平関与』勁草書房, pp. 19-43 ⑩ 山田裕史 (2011)「ポル・ポト政権後のカンボジアにおける国家建設—人民党支配体制の確立と変容」上智大学大学院外国語学研究科博士論文
所属学会 その他	東南アジア学会、日本比較政治学会、日本国際政治学会、日本平和学会 特定非営利活動法人新潟国際ボランティアセンター (NVC) 運営委員 (2016年5月～現在)、こいがた市民大学運営委員 (2018年4月～現在)、新潟にしかん地域循環共生圏協議会共同副代表 (2020年～現在)



氏名	サトウ ヤスコ 佐藤 泰子 SATO Yasuko
性別	女
生年月日	1964年6月29日
職名	講師 (2019年4月)
連絡方法	E-mail : ysato@nuis.ac.jp
学歴	1993年 CENTRAL WASHINGTON UNIVERSITY Graduate Study of Master of Arts – English: Teaching English of Second Language / Teaching English of Foreign Language (TESL/TEFL英語教授法専攻) 修士課程修了 Master of Arts (文学修士号取得)
職歴	中学校教諭1種免許状・高等学校教諭1種免許状(英語)取得 1992年 Central Washington University 大学付属 ESL研究助手 1993年～1995年 東京家政大学国際交流センター職員 1995年～1999年 同短期大学部国際コミュニケーション科助手 2001年～2008年 同上 家政学部非常勤講師 2008年～2014年 同上 大学人文学部・家政学部非常勤講師 2009年～2013年 東京国際大学言語コミュニケーション学部非常勤講師 2012年～2014年 新潟国際情報大学情報文化学科非常勤講師
研究分野	英語教授法 (TEFL/TESL)、通訳・翻訳理論&研究、教育工学、観光英語 ① 研究テーマ：eラーニングを活用した英語教育を1年基礎科目で実践中。 キーワード：MOOC/MOODLE/CAT ② 研究テーマ：集中英語コースにて通訳・翻訳理論を導入したreading & writingを 実践中。 キーワード：QR-response / Sight translation & interpretation / Retention / Summarization ③ 研究テーマ：観光や旅行業に必要な英語の運用能力。地元新潟から世界へ。 地元を巻き込んだ「おもてなし」に必要な英語力について研究。 キーワード：通訳案内士/Goodwill Guide/Tourism English
主要業績	著書 「Introduction to Essay Writing – A Step-By-Step Course from Paragraph to Essayエッセイライティング入門」 Jann Huizenga著 佐藤泰子他編訳 松柏社 2012年 (第13版) 論文 ① SATO, Y. (2020). Validation of the EIKEN Tests in Japanese University's English Foundation Course-A Case Study on Teaching EFL Students at NUIS-NUIS Journal of International Studies 2020, No. 5, 27-37. ② Sato, Y. (2019). A Comparative Study of MOOCs among Higher Education Institutions in Asian Countries:The Instructor's Perspectives. NUIS Journal of International Studies 2019, No. 4, 123-130. ③ Sato, Y. (2018). The Case Study of MOOCs for College Students in Japan. KTESOL PROCEEDINGS 2018, 201-209. ④ Sato, Y. (2015). An Analysis of Effectiveness of TOEIC Practice with Computer Adaptive Testing (u-CAT) as a Web-Based CALL System. NUIS Journal of International Studies 2015, 91-96. ⑤ Sato, Y. (1996). A Collaborative Work in Writing Classes Taught Abroad: Speculation on the Effectiveness of Peer-Response Group Work in Japan. Bulletin of Tokyo Kasei University. 1, Cultural and social science, Vol. 36.
所属学会	・ The Japan Association for Interpreting and Translation Studies (JAITS) 日本通訳翻訳学会 ・ Japan Society for Educational Technology (JSET) 日本教育工学会 ・ The Japan Association for Language Education and Technology (LET) 外国語教育メディア学会 ・ Teachers of English to Speakers of Other Languages, Inc. (TESOL)
社会貢献・その他	・ 平成26年新潟市シティプロモーション認定事業「留学生とともに発信！食と郷土文化を学ぶ岩室温泉ツアー企画事業」－「IWAMURO」を英語で、一緒にLet's おもてなし！新潟初バイリンガルなまちあるきガイドへの道 ・ 文化講演会「新潟らしい『おもてなし』とは？」－街の魅力再発見・もてなす心、極意を達人に学ぶ－（「みなとまち新潟」市民団体等活動助成事業）連続講演会企画&講師 2018年11月～2019年2月 本学中央キャンパス ・ 新潟県シニアカレッジ「まちかどふれ愛英会話コース」講師（2016年～） ・ 新潟市国際観光課 大型クルーズ船観光客 通訳ボランティア講座担当（2019年～）



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

ホリカワ ユウリ

堀川 祐里 HORIKAWA Yuuri
女

1987年9月29日

講師 (2019年9月)

E-mail : yuurih@nuis.ac.jp

2006年4月～2010年3月 中央大学 経済学部 公共経済学科

2013年4月～2015年3月 中央大学 大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士課程前期課程

2015年4月～2019年3月 中央大学 大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士課程後期課程

学位
職歴

博士 (経済学) (中央大学) (2019年3月)

2010年4月～2012年9月 西村社会保険労務士事務所

2015年4月～2019年3月 中央大学 リサーチ・アシスタント

2017年4月～2019年3月 二葉看護学院 非常勤講師

2018年9月～2019年3月 國學院大学 非常勤講師

2018年10月～2019年3月 静岡県立大学短期大学部 非常勤講師

2019年4月～2019年8月 中央大学経済学部 助教

2019年4月～現在 中央大学通信教育部 インストラクター

2019年4月～2019年9月 大妻女子大学短期大学部 非常勤講師

2019年4月～2019年9月 成蹊大学 非常勤講師

2019年4月～2020年3月 専修大学 非常勤講師

2020年4月～現在 新潟大学 非常勤講師

受賞歴
研究分野
主要業績

赤松常子 顕彰会 第49回 赤松賞

社会政策、日本経済史、ジェンダー史

著書

① 法政大学大原社会問題研究所/榎一江編著『戦時期の労働と生活』法政大学出版局、2018年 (共著) 第7章「戦時期における女性労働政策の展開：総動員体制下の健康と賃金に焦点をあてて」担当

② 鳴子博子編著『ジェンダー・暴力・権力』晃洋書房、2020年 (共著) 第5章「戦時期の女性労働動員が現代日本に残したもの：『生理休暇』に焦点を当てて」担当

論文

① 「アメリカの性教育と『包括的性教育のためのガイドライン』」(特集 日本の性教育を展望する：世界の中の日本)『季刊セクシュアリティ』65号、2014年

② 「赤松常子と『婦人問題』：生理休暇制定要求の背景となる運動と思想を中心に」修士論文、中央大学、2015年

③ 「戦時期の『女子労務管理研究』と女性労働者の健康：労働科学研究所を中心に」『中央大学経済研究所年報』49号、2017年

④ 「戦時動員政策と既婚女性労働者：戦時期における女性労働者の階層性をめぐる一考察」『社会政策』9巻3号、2018年

⑤ 「戦時期の女性労働者動員政策と産業報国会：赤松常子の思想に着目して」『大原社会問題研究所雑誌』715号、2018年

⑥ 「戦時期における救貧対策としての母子保護法：子どもの育成に対する期待と稼得労働に対する期待の二重性を中心に」『経済学論纂』59巻5・6号、2019年

⑦ 「戦時期日本の労働動員における女性労働者の多様性に関する研究：稼得労働と世代の再生産をめぐる政策のもつ期待の二重性に対する研究者と指導者の主張を糸口に」博士論文、中央大学、2019年

所属学会

社会政策学会

“人間と性”教育研究協議会

ジェンダー史学会

総合女性史学会

日本労働社会学会

日本科学者会議

東京歴史科学研究会

その他

社会政策学会広報委員会委員

社会政策学会春季大会企画委員

中央大学経済研究所客員研究員



氏名	ジュリアス マルティネス Julius C. Martinez
性別	男
生年月日	1980年3月3日
職名	契約准教授 (CEP) (2021年4月)
連絡方法	E-mail : jcm@nuis.ac.jp
学歴	2003 University of the East, Philippines Bachelor of Secondary Education Major in English 2009 Ateneo de Manila University, Philippines MA in English Language and Literature Teaching 2019 University of the Philippines PhD in Language Education
学職	Pearson Education South Asia, Indonesia, Consultant (2015-2016) Saint John's School, Indonesia, Faculty (2015-2016) University of the Philippines, Lecturer (2013-2015) Ateneo de Manila University, Philippines, Instructor (2013-2015) Saint John's School, Indonesia, Consultant (2013-2015) Saint John's School, Indonesia, Faculty & International Examinations Coordinator (2007-2013) Malayan High School of Science, Philippines, Faculty (2005-2007) Saint Mary's Academy, Philippines, Faculty (2003-2005)
受賞歴	University Scholar, 1st semester, SY 2013-2014 University of the Philippines College of Education Best Paper, 1st Education Graduate Conference, 5 October 2013 University of the Philippines College of Education Travel Grant, Amazing Minds 2013 Conference, Bali Indonesia Pearson Education South Asia Hong Kong Travel Grant, Amazing Minds 2012 Conference, Danang, Vietnam Pearson Education South Asia Hong Kong First Place, Research Presentation Competition 2011 Pearson Education South Asia Hong Kong First Place, Classroom Action Research Competition 2010 Lembaga Bahasa & Pendidikan Profesional LIA Jakarta, Indonesia
研究分野	Translingualism Critical sociolinguistics
主要業績	① Martinez, J. (2019). Semiotic resources in everyday communication. NUIS Journal of International Studies, 4, 73-90. ② Adamson, J., Steward, A., Smith, C., Lander, B., Fujimoto-Adamson, N., Martinez, J. and Masuda, M. (2019). Exploring the publication practices of Japan-based EFL scholars through collaborative autoethnography English Scholarship Beyond Borders, 5 (1), 3-31. ③ Martinez, J. (2017). Preparing teachers to teach English as an international language, Asian Englishes, DOI: 10. 1080/13488678. 2017. 1345556 ④ Martinez, J. (2017). English language education in Japan, Indonesia and the Philippines: A Survey of Trends, Issues and Challenges. NUIS Journal of International Studies, 2, 83-93 ⑤ Martinez, J. (2015). Orchestrating a Pedagogy of Negotiated Voice in Writing. ACELT Forum, 9, 2-8 ⑥ Martinez, J. (2014). Quality in ELT Action Research. CAR Journal, 7 (1), 1-6. ⑦ Martinez, J. (2014). Cross-Fertilizing Original and Simplified Literary Texts. ACELT Forum, 8 (1). ⑧ Martinez, J. (2012). Who's Afraid of Classroom Action Research? CAR Journal, 5 (1), 3-8. ⑨ Martinez, J. (2010). Stepping in, Stepping up: A Tale of Empowering the Agents of Innovation. SEAMEO- Australia Press Award. Retrieved from http://www.seameo.org/images/stories/Programmes_Projects/Press_Award/2010/Articles/04- A-tale-of-empowering-agents-of-education.pdf . ⑩ Martinez, J. (2009). Using Simplified Literary Texts in the English Language Classroom. In Selected Proceedings of the 2nd RAFIL International Conference on East-West Encounters. Yogyakarta: Universitas Sanata Dharma. 283-312.
所属学会	*Member, Asia Teachers of English as a Foreign Language (Asia TEFL) *Member, Japan Association for Language Teaching (JALT)



氏名	シンシア スミス Cynthia Smith
性別	女
生年月日	1972年12月12日
職名	契約講師 (CEP) (2021年5月)
連絡方法	E-mail : smith@nuis.ac.jp
学歴	M.A. TESOL Anaheim University, 2012 B.A. Latin American Studies, Smith College, 1994
学位	M.A. in TESOL
職歴	GLT Engage, Portland, Instructor (2020-2021); 新潟国際情報大学, CEP Instructor (2016-2019) AIR College, Instructor, 2015-2016; Niigata City Board of Education, Assistant Language Instructor, 2013-2014; Instructor, Portland State University (USA), 2011-2013; Niigata City Board of Education, Assistant Language Instructor, 2004-2011; GEOS Language Systems, Instructor and Area Liaison to Head Office, 1997-2004
受賞歴	Award for Academic Excellence, Anaheim University, 2012
研究分野	Bilingualism; Diversity
主要業績	① Smith, C. (2020). Lesbian, mother, foreigner, and educator: Challenges of a multifaceted identity in Japan. In D. H. Nagatomo, K. A. Brown, & M. L. Cook (Eds.), Foreign female English teachers in Japanese higher education: Narratives from our quarter (pp. 193-205). Candlin & Mynard. ② Smith, C. & Thukral, L. (2020). Coping with homework: Two intercultural mothers' experiences with their children's schoolwork in Japan. In M. L. Cook & L. G. Kittaka (Eds.), Intercultural families and schooling in Japan: Experiences, issues, and challenges (pp. 94-117). Candlin & Mynard. ③ Smith, C. (2018). Linguistics of Diversity. Bilingual Japan, 27(2). JALT Bilingualism SIG. ④ Smith, C. (2017). Creating LGBT-inclusive classrooms. Paper presented at the North East Asia Regional (NEAR) Language Education Conference, Niigata, Japan. ⑤ Smith, C. (2016). The Shy Bilingual. Bilingual Japan, 25 (2), 16-19. JALT Bilingualism SIG. ⑥ 2013.7 新潟市教育委員会日本人教員研修 講師 ⑦ 2013.1 新潟県主催・文部科学省共催 Skills Development Conference 発表: Correcting student errors ⑧ 2010.1 新潟県教育委員会主催、文部科学省共催年中学会発表: Cultural issues facing female ALTs
所属学会	・ Member, Japan Association of Language Teachers (JALT) ・ Executive Board Member, Niigata JALT ・ Member, JALT College and University Educators Special Interest Group and JALT Gender Awareness in Language Education Special Interest Group

経営情報学部 経営学科

内田 亨

木村 誠

佐々木 宏之

藤瀬 武彦

藤田 晴啓

阿部 聡

小宮山 智志

佐々木 桐子

藤田 美幸

山下 功

今井 裕紀

土屋 翔





氏名	ウチダ トオル 内田 亨 UCHIDA Toru
性別	男
生年月日	1961年6月6日
職名	教授 (2012年4月)
連絡方法	E-mail : uchida@nuis.ac.jp
学歴	1985年3月中央大学文学部文学科英米文学専攻卒業 1999年4月～1999年6月リヨン経営大学MBA交換留学 2000年3月早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際経営学 (MBA) 修了 2000年6月～2000年7月リヨン経営大学MBA交換留学 2000年9月～2001年6月ブリュッセル自由大学医学部交換留学 2004年9月～2005年6月リヨン第1大学医学部公衆衛生学講座交換留学 2007年3月早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学博士課程修了 博士 (学術、早稲田大学、2007年6月) 経営学修士 (MBA、早稲田大学、2000年3月)
職歴	1985年4月～1990年7月ライオン株式会社薬品事業部大阪本店営業課課員 1990年8月～1993年7月ライオン歯科材株式会社大阪本店販売促進課課員 1994年3月～1995年1月日本ロシユ株式会社試薬本部福岡支店営業課課員 1995年2月～1998年7月日本ロシユ株式会社試薬本部PCR (遺伝子診断) ビジネスユニット福岡支店Sales Planning 2004年10月～2005年3月リヨン経営大学非常勤講師 2007年4月～2012年3月西武文理大学サービス経営学部准教授
研究分野	水産養殖事業のグローバルビジネスモデルの構築、組織におけるウェルビーイング
主要業績	著書 ① 内田亨「第7章サービス企業のビジネスモデル(1)戦略実現の仕組み」、寺本義也、中西晶 (編著) 『サービス経営学入門：顧客価値共創の戦略経営』同友館、2017年。 ② 内田亨、逆瀬川明宏『経営と組織』新潟国際情報大学情報システム教科書シリーズ6、2016年。 ③ 内田亨、逆瀬川明宏、オルシニ・フィリップ『医療ガバナンスー医療機関のガバナンス構築を目指して』日本医療企画、2010年。 論文 ① Magnier-Watanabe, R., Uchida, T., Orsini, P., & Benton, C. (2020). Organizational virtuousness, subjective well-being, and job performance: Comparing employees in France and Japan. <i>Asia-Pacific Journal of Business Administration</i> , 12(2), pp.115-138. ② Magnier-Watanabe, R., Benton, C. F., Uchida, T., & Orsini, P. (2019). Designing Jobs to Make Employees Happy? Focus on Job Satisfaction First. <i>Social Science Japan Journal</i> , 22(1), pp.85-107 ③ Magnier-Watanabe, R., Uchida, T., Orsini, P., & Benton, C. F. (2018). The Mediating Role of Subjective Well-Being on Organizational Virtuousness and Job Performance : A Comparison between France and Japan. <i>Journal of Strategic Management Studies</i> , 10(1), pp.5-18. ④ Magnier-Watanabe, R., Uchida, T., Orsini, P., & Benton, C. (2017). Organizational Virtuousness and Job Performance in Japan : Does Happiness Matter? <i>International Journal of Organizational Analysis</i> , 25(4), pp.628-646. ⑤ 内田亨、佐々木宏「水産資源分析によるプリのグローバル戦略製品の可能性」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』Vol.3,2017年,pp.87-97. ⑥ 内田亨、山本靖「新潟県における『ブライ企業』の研究ーシマト工業株式会社の事例よりー」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』Vol.2,2016年,pp.61-70. ⑦ 内田亨「地域の中小企業とそれを取り巻くステークホルダーによる地域ブランド構築のメカニズム」『地域デザイン学会誌』第2号、2013年、pp.133-152. ⑧ 内田亨、山本靖、逆瀬川明宏「日米コーポレート・ガバナンスの課題と日本の経営で共感される価値観：人間的経営を包含した経営哲学を目指して」『西武文理大学研究紀要』第18号、2011年、pp.122-131。 ⑨ 内田亨、寺本義也「病院とコミュニティの共進化：専門知と非専門知による価値創造」『オフィス・オートメーション学会誌』Vol.27, No.1, 2006年, pp.55-63。 ⑩ 平野雅章、須藤秀一、内田亨「医療機関へのBSCの導入と情報マネジメント」『経営情報学会誌』Vol.14, No.4, 2006年, pp.85-98。 他32編
所属学会	日本経営品質学会、国際戦略経営研究学会、組織学会、日本情報経営学会、経営情報学会、日本システムデザイン学会
その他	新経営革新研究会主宰、日本クリニカル・ガバナンス研究会会員、日本経営品質学会理事 (2015年～)、新潟県経営品質賞委員会委員 (2018年～)



氏名	キムラ マコト 木村 誠 KIMURA Makoto
性別	男
生年月日	1963年8月29日
職名	教授 (2021年4月)
連絡方法	mkimura@nuis.ac.jp
学歴	1983年4月～1987年3月 日本大学 理工学部 物理学科 1997年4月～1999年3月 産能大学 大学院 経営情報学研究科 2000年4月～2003年3月 東京大学 大学院工学系研究科博士課程 先端学際工学専攻
学位	理学士 日本大学 1987年3月 経営情報学修士 産能大学 1999年3月
職歴	2007年4月～2018年3月 長野大学 企業情報学部 企業情報学科 准教授 2018年4月～2021年3月 公立大学法人 長野大学 企業情報学部 企業情報学科 教授
受賞歴	2021年4月～現在 新潟国際情報大学 経営情報学部経営学科 教授 2018年10月 一般社団法人経営情報学会 2018年度論文賞 2018年10月 日本マーケティング学会 カンファレンス2018オーラルセッション ベストペーパー賞 2001年10月 経営情報学会 経営情報学会2001年度論文賞
研究分野	デジタル戦略, プラットフォーム経済, 経営情報学, デジタル・マーケティング, システム・ダイナミクス
主要業績	① Makoto Kimura, Customer Journey Pathway Analysis from the Perspective of Customer Engagement: A System Dynamics Approach, 3rd Asia Pacific System Dynamics Conference in Brisbane, 1-10, 2020. ② 木村誠, カスタマージャーニー (CJ) とカスタマーエンゲージメント (CE) の統合化モデルとシミュレーション, 日本マーケティング学会カンファレンス・プロシーディングス, 7, 241-252, 2018年. ③ 木村誠, クロスサイドネットワーク効果の萎縮効果の類型化 - コンシューマゲーム産業の2サイド市場モデルとシミュレーション -, 経営情報学会誌, 26 (3), 163-186, 2017年. ④ Makoto Kimura, The growth stage of Japanese game apps market, 2nd Asia-Pacific Region System Dynamics Conference of the System Dynamics Society, 1-19, 2017. ⑤ 木村誠, O2O活動が支援するRV連携ゲーム事業の逆問題アプローチによる事例分析, 経営情報学会誌, 25 (1), 1-27, 2016年.
所属学会	経営情報学会, 組織学会, 日本行動計量学会, 日本システム・ダイナミクス学会, 日本マーケティング学会, Academy of Management, American Marketing Association, Strategic Management Society, System Dynamics Society
その他	早稲田大学IT戦略研究所 招聘研究員 日本システム・ダイナミクス学会 編集委員



氏名	ササキ ヒロユキ 佐々木 宏之 SASAKI Hiroyuki
性別	男
生年月日	1973年8月9日
職名	教授 (2020年4月)
連絡方法	E-mail : sasakih@nuis.ac.jp
学歴	1996年 東北大学文学部卒業 1998年 東北大学大学院文学研究科博士前期2年の課程修了 2002年 東北大学大学院文学研究科博士後期3年の課程単位取得退学
学位	博士 (文学、東北大学、2003年2月)
職歴	2002年4月～2004年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD) 2004年4月～2011年3月 新潟中央短期大学幼児教育科専任講師 2011年4月～2018年3月 新潟中央短期大学幼児教育科准教授
研究分野	視知覚におよぼす選択的注意の影響 自己制御の発達と養育の役割 意思決定フレーミング効果の応用研究
主要業績	<ul style="list-style-type: none"> ① 佐々木宏之・鈴木達也 (2019). サッカーのペナルティキックにおける傾向と対策—2018年W杯ロシア大会の映像分析とPK実験から— 暁星論叢 (新潟中央短期大学紀要), 70, 87-105. ② 佐々木宏之・林洋一郎 (2017). 多母集団同時分析による回顧的ペアレンティング尺度の信頼性と妥当性の検討 慶應経営論集, 34, 233-246. ③ Sasaki, H. (2016). Object-color associations in preschool children's drawings. <i>Current Psychology</i>, 35, 410-413. ④ Sasaki, H. & Hayashi, Y. (2015). Regulatory fit in framing strategy of parental persuasive messages to young children. <i>Journal of Applied Social Psychology</i>, 45, 253-262. ⑤ Sasaki, H. (2014). Visual attention to reference frames affects perceptions of shape from shading. <i>Perceptual and Motor Skills</i>, 118, 850-862. ⑥ Sasaki, H. & Hayashi, Y. (2014). Justice orientation as a moderator of the framing effect on procedural justice perception. <i>Journal of Social Psychology</i>, 154, 251-263. ⑦ Sasaki, H. & Hayashi, Y. (2013). Moderating the interaction between procedural justice and decision frame: The counterbalancing effect of personality traits. <i>Journal of Psychology: Interdisciplinary and Applied</i>, 147, 125-151. ⑧ 佐々木宏之 (2010). 意思決定フレーミング効果の三類型—幼児の発達と保育の観点を踏まえて— 暁星論叢 (新潟中央短期大学紀要), 60, 55-72. ⑨ Sasaki, H. (2007). Dynamic grouping and interpolation induced by flickering stimuli. <i>Perception</i>, 36, 471-474. ⑩ Sasaki, H. & Kanachi, M. (2005). The effects of trial repetition and individual characteristics on decision making under uncertainty. <i>Journal of Psychology: Interdisciplinary and Applied</i>, 139, 233-246 ⑪ Sasaki, H., Ishi, H., & Gyoba, J. (2004). Effects of gaze perception on response to location or feature. <i>Psychologia</i>, 47, 104-112. ⑫ Sasaki, H. & Gyoba, J. (2002). Selective attention to stimulus feature modulates interocular suppression. <i>Perception</i>, 31, 409-419.
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本基礎心理学会、東北心理学会、新潟心理学会



氏名 藤瀬 武彦
 性別 男
 生年月日 1962年4月22日
 職 教授 (2002年4月)
 連絡先 E-mail: fujise@nuis.ac.jp
 学 位 1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業
 1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了
 1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了
 職 歴 体育学修士 (東海大学、1987年3月)
 博士 (医学) (東海大学、1992年9月)
 1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師
 1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師
 1998年4月～新潟国際情報大学助教授
 2002年4月～新潟国際情報大学教授
 研究分野 ① 運動生理学 (身体機能に及ぼす高酸素トレーニングの効果)
 ② 肥満学 (隠れ肥満及び痩せ願望の実態、ボディイメージの歪みについて)
 ③ トレーニング科学 (ウエイトトレーニングと疾走能力との関連)
 ④ スポーツ文化財としてのオリンピック関連資料の収集と分析
 主要業績 著書
 ① 『筋力をつくるトレーニング』長澤純一編著「体力とはなにか」、NAP、190-206、2007年
 論文
 ① 藤瀬武彦「スポーツ文化財としてのオリンピック関連資料の収集について 第三報—1924年 第8回パリオリンピックに関する収集品—」新潟国際情報大学国際学部紀要, 6, 2021年, (印刷中)
 ② 藤瀬武彦, 亀岡雅紀, 藤田美幸「一般男女大学生の基礎体力に及ぼす新型コロナウイルス感染拡大時の活動自粛の影響—遠隔授業による自宅での運動と体力測定値の妥当性—」新潟国際情報大学経営情報学部紀要, 4, 89～107, 2021年.
 ③ 藤瀬武彦「スポーツ文化財としてのオリンピック関連資料の収集について 第二報—1920年 第7回アントワープオリンピックに関する収集品—」新潟国際情報大学国際学部紀要, 5, 67～78, 2020年.
 ④ 藤瀬武彦・亀岡雅紀・橋本麻里「一般男子学生におけるフリーウエイト運動の%1RMでの最高反復回数と酸素消費量—バーベルを用いたベンチプレス及びスクワットにおいて—」新潟国際情報大学経営情報学部紀要, 3, 65～74, 2020年.
 ⑤ 藤瀬武彦「スポーツ文化財としてのオリンピック関連資料の収集について 第一報—1912年、1940年、及び1964年夏季オリンピックに関する収集品—」新潟国際情報大学国際学部紀要, 4, 145-157, 2019年.
 ⑥ 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾「女子学生における痩せ願望及び理想体型と実測体型との関連について—形態数値の明らかなモデル選択による理想体型の客観的評価の試み—」新潟国際情報大学経営情報学部紀要, 1, 1-18, 2018年.
 ⑦ 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・他「一般青年男女におけるベンチプレスの1RM相対重量での最高反復回数」トレーニング科学, 21, 225-238, 2009年.
 ⑧ 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・他「歩行トレーニング時の高濃度酸素ガス吸入が皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす効果」新潟体育学研究, 21, 35-45, 2003年.
 ⑨ 藤瀬武彦「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」体力科学, 52, 421-432, 2003年.
 ⑩ 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・他「短時間劇運動後の回復期における高濃度酸素ガス吸入の効果—血中乳酸値及び運動能力の回復から—」新潟国際情報大学情報文化学部紀要, 6, 143-158, 2003年.
 ⑪ 藤瀬武彦「日本人青年女性における体型の自己評価と理想像—アジア人及び欧米人青年女性との比較—」新潟国際情報大学情報文化学部紀要, 4, 105-122, 2001年.
 ⑫ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴」体力科学, 48, 631-640, 1999年.
 ⑬ 藤瀬武彦・長崎浩爾・岩垣丞恒・他「トレッドミル歩行時の二酸化炭素排出量及び血中乳酸値に及ぼす高酸素吸入の影響」新潟国際情報大学情報文化学部紀要, 2, 221-235, 1999年.
 ⑭ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・他「持久的運動鍛錬者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学, 10, 87-96, 1998年.
 ⑮ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・他「漸増負荷運動時の高酸素吸入が持久的運動鍛錬者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果」トレーニング科学, 9, 30-38, 1997年.
 ⑯ 藤瀬武彦・杉山文宏・松永尚久・長畑芳仁「一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み」体育学研究, 39, 403-416, 1995年.
 ⑰ Fujise, T., Terao, T., and Nakano, S. Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats. Tokai J. Exp. Clin. Med., 17, 67-73. 1992.
 ⑱ 藤瀬武彦・内山秀一・寺尾 保・中野昭一「ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学, 40, 208-218, 1991年.
 所属学会 日本体育学会・日本体力医学会・日本運動生理学会・日本肥満学会・日本トレーニング科学会
 その他 新潟県パワーリフティング協会理事・北信越学生陸上競技連盟副会長



氏名	フジタ ハルヒロ 藤田 晴啓 FUJITA Haruhiro
職名	教授 (2012年4月)
連絡方法	E-mail : fujita@nuis.ac.jp
学歴	1981年3月 宮崎大学農学部草地学科卒業 1983年3月 九州大学大学院農学研究科修士課程修了 1989年2月 キーンズランド大学農学研究科博士研究課程修了
学位	Doctor of Philosophy (学術博士 The University of Queensland, 1989,8)
学職	1989年4月 農林水産省草地試験場研究員任官、地理情報システム研究 1992年3月 国際農林水産業研究センター主任研究官、乾燥地保全研究 1992年3月 Int.Cent.Agric.Res. in Dry Areas, Senior Scientist (併任) (国際乾燥地農業研究センター上席研究者 乾燥地情報システム)
研究分野	1995年10月 農林水産省四国農業試験場企画連絡室、防災システム研究 2000年7月 日本国際協力システム業務第一部 2003年4月 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授 (情報システム) (1) ディープラーニング (深層学習) による物体検知 (2) MR (複合現実) デバイスを使ったコンピュータ・ビジョンと物体認知の融合 (3) データサイエンスによる文化遺産の保護と復元
主要業績	① Estimation of degradation hazard in northern Syria applying a neural network and GIS, Proceedings of the 5th International Workshop on Parallel Image Analysis -Theory and Applications- 82-92, 1997 ② Construction of inverse model for data mining by using probabilistic neural network, Proceedings of 6th International Symposium of Artificial Life and Robotics, 317-320, 2001 ③ マイクロソフト・ホロレンズ (Microsoft HoloLens) を利用した郷土人形ホログラム展示の実証実験-デジタル・ミュージアムへの展望- 「東風西声」九州国立博物館紀要2017 第13号 47-62, 2018 九州国立博物館 ④ Fine-tuned Surface Object Detection Applying Pre-trained Mask R-CNN Models, International Conference of Computational Intelligence 2020, IEEE Conference Proceeding, 978-1-5386-5541-2/18. ⑤ Fine-tuned Pre-trained Mask R-CNN Models for Surface Object Detection,2020. https://arxiv.org/abs/2010.11464 ⑥ Detector Algorithms of Bounding Box and Segmentation Mask of a Mask R-CNN Model,2020. https://arxiv.org/abs/2010.13783
所属学会 その他	International Society of Biomass and Bioenergy にいがたGIS推進協議会アドバイザー 東京国立博物館客員研究員 (考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究) Python 機械学習勉強会 in Niigata Secretary, International Society of Biomass and Bioenergy Advisory Committee member of World Engineering, Science and Technology Congress 2021 競争資金[学術研究助成基金助成金]人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用に向けた研究基盤の確立 (国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) 令和元年度~令和5年度) 令和2年度佐渡市域学連携地域づくり応援事業集落活性化調査研究, 羽茂小泊集落と連携



氏名	アベ サトシ 阿部 聡 ABE Satoshi
性別	男
生年月日	1977年
職名	准教授 (2016年4月)
連絡方法	E-mail : satabe@nuis.ac.jp
学歴	2000年3月 新潟大学人文学部行動科学課程 卒業 2002年3月 新潟大学大学院人文科学研究科修士課程 修了 2011年3月 新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程満期退学
学位	修士 (文学) (新潟大学、2002年3月)
職歴	2005年4月～2006年3月 新潟経営大学非常勤講師 2005年4月～2011年3月 長岡工業高等専門学校非常勤講師 2005年10月～2006年3月 新潟大学非常勤講師 2009年4月～現在 新潟医療福祉大学非常勤講師 2010年4月～2013年3月 新潟国際情報大学非常勤講師 2010年10月～2013年3月 新潟大学非常勤講師 2011年4月～2013年3月 北陸大学非常勤講師 2013年4月～2016年3月 会津大学短期大学部社会福祉学科講師 (専任)
研究分野	機能言語学、英語教育、談話分析の応用としてのheavy metal studies
主要業績	① 阿部聡. 日本語におけるN-Rheme : 書記テキストにおける具現と機能について (『現代社会文化研究』25号、新潟大学大学院現代社会文化研究科. pp. 267-283, 2002) ② 阿部聡. 観念構成的比喩としての名詞化 (『欧米の言語・社会・文化』第10号、新潟大学大学院現代社会文化研究科「欧米の言語・社会・文化の総合的研究」プロジェクト班. pp. 1-29, 2004) ③ 阿部聡. 日本語のジャンル構造と語彙-文法的資源 —テキスト形成的メタ機能を中心に— (『現代社会文化研究』30号、新潟大学大学院現代社会文化研究科. pp. 179-195, 2004) ④ 田中真由美・阿部聡. 批判的談話分析のクリティカル・リーディングへの応用 (『中部地区英語教育学会紀要』38、中部地区英語教育学会. pp.23-30, 2009) ⑤ 阿部聡・田中真由美. ESL/EFLリーディング教科書の批判的談話分析 (Proceedings of JASFL Vol.3, 日本機能言語学会. pp.15-24, 2009) ⑥ 田中真由美・大湊佳宏・阿部聡. ペア・プランニングが自由英作文に与える影響—Coh-Metrixを用いたテキスト分析— (STEP Bulletin Vol.21, 日本英語検定協会. pp.174-180, 2009) ⑦ 阿部聡. 日本語学術的テキストにおける主題-題述構造と主題進行パターン (『言語の普遍性と個別性』第1号、新潟大学現代社会文化研究科. pp.53-68, 2010) ⑧ 阿部聡. 童話「かちかち山」再話の比較 —機能言語学的分析に基づく幼児への言語指導に関する一試案— (『会津大学短期大学部研究紀要』第72号 pp.119-127, 2015)
所属学会	日本機能言語学会 中部地区英語教育学会 日本語用論学会 全国英語教育学会



氏名
性別
生年月日
職名
連絡方法
学歴

コミヤマ サトシ
小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi
男

1969年5月3日
准教授（2004年4月）

E-mail : komiyama@nuis.ac.jp

1994年 中央大学文学部社会学科卒業

1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了

1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位習得退学
社会学修士（中央大学、1996年3月）

学位
職歴
研究分野

1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師（2000年に本学着任）

社会調査（データサイエンス）・ワークショップなどの手法を用いて“新潟”を活性化させるアイデアを地域の皆様と一緒に考えております。“情報化社会”とは（広義には）“モノ”の生産からアイデアの生産に価値が移行する社会だと言えます。AIや3Dプリンタなどの技術発展によって、いよいよその変化のスピードは増していくでしょう。“新潟”の豊かなコミュニティや素晴らしい自然環境を活かして、新しい“新潟モデル”を創造するお手伝いができればと考えております。

主要業績

論文など

- ①「新興住宅地における災害時のSNSの情報伝播」（新潟国際情報大学経営学部 紀要 第4号、pp.1-7 2021年）
- ②「台湾・日本における“姉妹古民家”の提案」（新潟国際情報大学経営情報学部 紀要 第2号、pp.13-20 2019年）
- ③「新発田のインバウンド・アウトバウンドと台湾」（2018年度（公財）新潟県国際交流協会国際理解セミナー 2018年12月16日：新発田市）
- ④「支え合いの気持ちを持ち寄ろう」（西区「支え合いのしくみづくり」研修会 2018年9月29日）
- ⑤「“台湾”の魅力:2020年“国際観光都市新潟”に向けて」（2017年度（公財）新潟県国際交流協会国際理解セミナー 2017年9月24日）
- ⑥「赤塚」の魅力＝「まちづくり」（赤塚郷ゆかりの文人展実行委員会『赤塚地域の魅力とお宝』2016年12月）
- ⑦「女子学生のインターネット（SNS）を介した出会いの要因解明」（第60回数理社会学会大会 2015年8月29日 2015年度本学卒業生鈴木貴也（ファーストオーサー）との共同研究）
- ⑧「情報感度の学習成果に及ぼす影響」（経営情報学会2014年秋季大会 2014年11月22日 共同研究者：小林満男）
- ⑨「ネガティブ情報がもたらす購買促進効果の要因解明」（第55回数理社会学会大会 2013年3月19日 2012年度本学卒業生伊佐瞳（ファーストオーサー）との共同研究）
- ⑩「職業における“楽しみ”の階層研究」（第53回数理社会学会大会 2012年3月14日）
- ⑪「モータリゼーションが発達した地方都市における消費者の店舗選択要因の解明」（新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第11号、pp.31-39 2008年）
- ⑫「コンピュータ活用の差異がE-Learningの評価に及ぼす影響」（新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第10号、pp.99-106 2007年）
- ⑬「階層線形モデルによる“地域不公平感”の分析」（新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号、pp.161-178 2004年）
- ⑭「Perception of “effort,” “Ability,” and “Equal Opportunity” in Japanese Society」（M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be,Minsitry of Education,Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report,09410050,2000 pp.87-100）

所属学会
社会貢献

数理社会学会、日本社会学会、関東社会学会、日本行動計量学会
新潟市西区拠点商業地活性化推進委員会委員長、魚沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議会長、魚沼市地域経済活性化協議会委員、佐潟周辺自然環境保全連絡協議会委員、赤塚小学校評議員、新潟県立巻総合高等学校評議員、内野商店街活性化ワーキングチーム、くろさきワーキングチーム、国際交流ファシリテーター事業専任アドバイザー、中原邸保存会会員、佐潟と歩む赤塚の会会員。その他、支え合いしくみづくりの会『な～とな～』を発足しみずき野、中野小屋地区等で活動中。また上越市宇津俣地区の産物の販売促進や各地イベント（中原邸公開・佐潟まつり・西川町緑の音楽祭・みずき野祭・十日町縄文市など）に本学学生と共に参加。



氏名	ササキ トウコ 佐々木 桐子 SASAKI Toko
性別	女
生年月日	1972年2月22日
職名	准教授 (2008年4月)
連絡方法	E-mail : tohko@nuis.ac.jp
学歴	1994年3月 東洋大学経営学部経営学科卒業 1996年3月 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了 1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生 2001年3月 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学
学位	経営学修士 (東洋大学、1996年3月)
職歴	2001年4月～2008年3月 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師 2008年4月～ 同大学准教授 2005年～ 新潟大学経済学部非常勤講師
研究分野	① 生産システム、ロジスティクスシステム、および道路交通システムのシミュレーション分析。 ② シミュレーション技術を活用した学習支援システムの開発。
主要業績	論文 ① “Disaster Management and JIT of Automobile Supply Chain”, <i>Journal of Niigata University of International and Information studies</i> , No.16, pp81-95, 2013. ② 「バイオメトリクスのユーザー受容性に関する諸課題～指静脈認証による出席管理システムの事例～」(単著)『バイオメディカル・ファジィシステム学会誌』 Vol.12, No.1, pp.79-86, 2010. ③ 「指静脈認証による出席管理システムの開発」(単著)『日本情報経営学会学会誌』 vol.29, No.4, pp.49-55, 2009. ④ 「授業支援システム開発 ～出席管理のすすめ～」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第12号, pp.151-162, 2009. ⑤ 「シミュレーション演習におけるe-Learningおよび協調学習の適用」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第10号, pp.107-112, 2007. ⑥ 「高等学校における教科「情報」に関する実態調査および大学入学時の情報リテラシー能力の変化」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.27, No.2, pp.69-75, 2006. ⑦ 「動機付け教育を目的としたe-Learningコンテンツの開発」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第9号, pp.131-138, 2006. ⑧ “A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, <i>Studies in Informatics and Sciences</i> , No.13, pp.81-89, 2001. ⑨ 「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.20, No.3, pp.76-82, 2000. ⑩ 「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.18, No.4-2, pp.133-136, 1998. ⑪ 「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」(単著)『オフィス・オートメーション』 Vol.18, No.4-2, pp.99-102, 1997.
所属学会 その他	日本経営システム学会、情報システム学会、経営情報学会 新潟県地方港湾審議会委員 (2012.6～) 新潟労働局公共調達監視委員会委員 (2015.2～) 新潟労働局新潟地方最低賃金審議会委員 (2015.9～) トラック輸送における取引環境・労働時間改善新潟県地方協議会委員 (2017.7～) 新潟県政府調達苦情検討委員会委員 (2018.1～) 新潟県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会委員 (2019.4～) 北陸地方整備局総合評価審査委員会委員 (2019.5～) (一社)北陸信越貸切バス適正化センター会長 (2019.6～) 荒川水系流域委員会委員 (2020.1.20～) 新潟県建築審査会委員 (2020.4～) 新潟市環境審議会委員 (2020.8～) 新潟県大規模小売店舗立地審議会委員 (2020.11～)



氏名	フジタ ミユキ 藤田 美幸 FUJITA Miyuki
性別	女
職名	准教授（2016年4月）
連絡方法	E-mail : miyu@nuis.ac.jp
学歴	2004年3月 新潟大学経済学部経営学科卒業 2007年9月 新潟大学大学院 現代社会文化研究科現代マネジメント専攻 博士前期課程修了 2016年3月 新潟大学大学院 現代社会文化研究科人間形成文化論専攻 博士後期課程修了
学位	博士（経済学）（新潟大学、2016年3月） 修士（経営学）（新潟大学、2007年9月）
職歴	新潟大学産学地域連携推進機構産学地域人材育成センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 博士インターシップ研究員（2011.5～2011.11） 新潟大学大学院現代社会文化研究科 リサーチ・アシスタント（2015.4-2016.3）
研究分野	地域資源とICTを活用したスポーツ&健康ツーリズムにおいて、消費者はどのようにして動機づけが高まるのか、どのように相互に影響し合うのかという課題をテーマとして、経営情報学、マーケティング戦略論、部分的にスポーツ心理学の側面から研究しています。
主要業績	論文（2014年以降） ① 藤田美幸（2020）「若年層化した個人競技的スポーツにおいてハイパフォーマンスを実現する組織マネジメント — 「スノーボード女性アスリートの強化支援」を事例として—」単著、『新潟国際情報大学 経営情報学部 紀要 Vol.3』 pp. 93-105 ② 藤田美幸（2019）「ハイブリッドまちあるきによる地域資源の物語化—2017ふるまちクエストを事例として—」単著、モバイル学会誌 Vol.9 No. (1/2)、pp.1-7 ③ 藤田美幸（2018）「ユーザの動機づけとエンゲージメントの関連」単著、日本情報経営学会誌vol.38,no.3、pp.83-92 ④ 藤田美幸, 塚田 麻紀（2018）「ゲーミフィケーションを活用したモバイル・ヘルスケアサービス：ドコモ・ヘルスケア「歩いておトク」を事例として」共著（筆頭著者）、日本情報経営学会誌 vol.38,no.3、pp.74-828 ⑤ 藤田美幸（2017）「デジタルとアナログの融合による地域活性化プラットフォームモデルの開発— “ふるまちクエスト” を事例として—」単著、モバイル学会誌、Vol.7 No. (1/2)、pp.23-28 ⑥ 藤田美幸（2017）「スポーツサービスにおけるモバイルの関係性および影響」単著、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、pp.50-607 ⑦ 藤田美幸（2016）「ヘルスケアサービスとゲーミフィケーションの親和性—ユーザ特性に着目して—」単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要、No.62、pp.303-320 ⑧ 藤田美幸（2015）「モバイルデバイスが引き起こすインスタントイノベーション」、共著（筆頭著者）、日本情報経営学会誌、vol.35,no.4、pp.72-80 ⑨ 藤田美幸（2015）「産業構造分析における勝敗マトリックスの有用性について—フィットネスクラブ産業への適用—」単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要 No.60、pp.67-84 ⑩ 藤田美幸（2015）「日本の社会構造の変化がもたらすICTヘルスケア」、単著、新潟大学 現代社会文化研究紀要 No.59、pp.163-180 ⑪ 藤田美幸他（2014）「超高齢社会とICT化によるスポーツクラブのパーソナイズ市場への変化」、共著（筆頭著者）、日本経営スポーツ学会研究年報 vol.4、pp.42-61
所属学会	日本情報経営学会、モバイル学会、地域活性学会、日本スポーツ産業学会、日本健康心理学会
その他	中部スノーボード協会 理事（1995～） 全日本スノーボード選手権中部地区大会 大会組織委員長（2007～2018） 全日本スノーボード学生選手権大会 大会組織委員長（2012～2018） 全日本スキー連盟、日本スポーツ振興センター委託事業「女性アスリートの強化支援（女性アスリートの競技大会等プログラム）」外部評価者（2018～）



氏名 ヤマシタ イサオ 山下 功 YAMASHITA Isao
 性別 男
 生年月日 1972年12月14日
 職名 准教授 (2013年4月)
 連絡方法 E-mail : iyamashi@nuis.ac.jp
 学歴 1996年3月 横浜国立大学経営学部会計・情報学科卒業
 1998年3月 横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了
 2009年3月 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士課程後期単位取得満期退学
 学位 修士 (経営学) (横浜国立大学、1998年3月)
 職歴 1998年3月～2003年4月 ミツミ電機株式会社 経理部
 2007年9月 新潟国際情報大学専任講師
 研究分野 管理会計、原価計算、会計情報システム、公共交通経営
 主要業績 論文
 ①「公共交通事業における日本とカナダの比較—独占と競争—」『年報 財務管理研究』第31号 (2020年5月)、pp.152-158.
 ②「エドモントンの公共交通の運賃制度」『新潟国際情報大学 経営情報学部 紀要』、Vol.2 (2019年4月)、pp.161-172.
 ③「セグメント情報による新潟交通株式会社の分析」『新潟国際情報大学 経営情報学部 紀要』、Vol.1 (2018年4月)、pp.57-68.
 ④「旅客運輸事業の利益性に関する考察:鉄道、バス、タクシー会社のセグメント情報による」『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、Vol.3 (2017年4月)、pp.61-69.
 ⑤「会計ソフトウェアにおける管理会計情報に関する考察」『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、Vol.2 (2016年4月)、pp.90-95.
 ⑥「文系研究室における低予算の産学連携」『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、Vol.1 (2015年4月)、pp.92-97.
 ⑦「大学初年次教育における作文の試行事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第16号 (2013年4月)、pp.97-103.
 ⑧「無料公衆無線LANの現状:収益・費用構造を中心に」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第15号 (2012年4月)、pp.81-87.
 ⑨「授業評価アンケートシステムの費用対効果:新潟国際情報大学における導入事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第14号 (2011年4月)、pp.83-91.
 ⑩「マークシートによる授業支援システムの費用対効果:新潟国際情報大学における試行導入事例」、『新潟国際情報大学 情報文化学部 紀要』、第13号 (2010年4月)、pp.115-123.
 ⑪「企業間連携における原価管理 組立型総合電子部品メーカーの事例研究」、『財務管理研究』、第16号 (2005年12月)、pp.101-110.
 ⑫「企業間原価管理の事例研究 組立型総合電子部品メーカーの事例」、『横浜国際社会科学研究所』、第9巻第6号 (2005年2月)、pp.95-112.
 ⑬『電力事業における原価管理』、横浜国立大学大学院経営学研究科修士論文、1998年.
 所属学会 日本原価計算研究学会、日本管理会計学会、日本財務管理学会、日本会計研究学会、情報システム学会
 その他 新潟市西区自治協議会委員 (2009年4月～2011年3月)
 新潟県下越地区吹奏楽連盟代議員 (2010年度)
 新潟市財務会計システム再構築業務 (2015～2017年度)
 数学おもしろ講座講師 (2016年度～)
 新潟県高齢者大学講師 (2017年度)
 アルバート大学客員教授 (2018年9月～2019年8月)
 新潟市次期税系システム再構築業務委託業者選定業務 (2020年7月)
 新潟市総務事務システム構築業務委託業者選定業務 (2020年10月)



氏名	イマイ ヒロノリ 今井 裕紀 IMAI Hironori
性別	男
生年月日	1984年3月4日
職名	講師 (2019年9月)
連絡方法	E-mail : imai@nuis.ac.jp
学歴	2006年3月 国際基督教大学教養学部人文科学科卒業 2013年3月 慶應義塾大学大学院経営管理研究科経営管理専攻修士課程修了 2019年3月 同志社大学大学院総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻一貫制博士課程修了
学位	博士 (技術・革新的経営) (同志社大学、2019年3月取得)
職歴	2006年4月～2011年3月 アルプス電気株式会社 2013年1月～2015年3月 西武文理大学サービス経営学部ヒューマンサービスセンター研究員 2016年4月～2020年3月 立教大学経営学部兼任講師 2018年10月～2019年3月 横浜国立大学経営学部非常勤講師
研究分野	組織行動論 産業・組織心理学
主要業績	① 社会的属性の相互作用と職務ストレス ② 多様な働き方と職業的適応 ① 今井裕紀・林洋一郎 (2020). 職務上の資源が職務要求を介してワーク・ファミリー・コンフリクトに与える影響—雇用形態に注目した調整媒介モデル—. 慶應経営論集, 37(1), 1-13. ② 今井裕紀 (2019). 慢性疾患を持つ従業員の機能的制限がディストレスとウェルビーイングに与える影響についての研究. 同志社大学博士学位論文. ③ Imai, H. (2018). An analysis of the association between functional limitation and distress among employees with chronic illness: Moderating roles of gender and employment status. <i>Doshisha Policy and Management Review</i> , 19(2), 135-146. ④ 今井裕紀 (2017). 病気と社会的地位が従業員の精神的健康に与える影響. 慶應経営論集, 34(1), 177-185.
所属学会	経営行動科学学会 産業・組織心理学会 新潟心理学会 Academy of Management American Sociological Association
その他	経営行動科学学会第20回年次大会運営委員2017年11月 経営行動科学学会監事2020年4月～現在 経営行動科学学会機関誌『経営行動科学』編集委員 (運営担当) 2020年4月～現在 平成30年度科学研究費助成事業基盤研究 (C)「青少年向けメンタリング・プログラムの基礎理論と政策的妥当性の検証」研究分担者2019年11月～現在



	ツチヤ ショウ
氏名	土屋 翔 TSUCHIYA Sho
性別	男
生年月日	1988年5月8日
職名	講師 (2018年4月)
連絡方法	E-mail : tsuchiya@nuis.ac.jp
学歴	2011年 神奈川大学経営学部国際経営学科卒業 2013年 神奈川大学大学院経営学研究科国際経営専攻博士前期課程修了 2016年 神奈川大学大学院経営学研究科国際経営専攻博士後期課程修了 (給費生)
学位	博士 (経営学) (神奈川大学、2016年3月)
職歴	2016年4月 神奈川大学国際経営研究所 客員研究員 (現在に至る) 2016年4月 NPO法人SOSA地域活性化センター 主任研究員 (現在に至る) 2016年4月 一般社団法人 サロン de WINE 会員 (現在に至る) 2016年9月 嘉悦大学経営経済学部 非常勤講師 (2018年9月まで)
受賞歴	2013年11月 一般社団法人 サロン de WINE 論文優秀賞 (リサイクルの必要性と経営との関係について) 2014年7月 湘南創業塾 優秀論文賞 (環境配慮型経営の必要性について)
研究分野	1) 日本農業の持続的発展に関する複合的研究 (主として組織論) 2) 集落営農に関する研究 3) 学生を主体とした地域持続的発展に関する研究
主要業績	論文、研究報告書、地域活動 (採択事業) ① 見吉英彦編『基礎からの経営学』、第9章「組織構造」担当、みらい、2020年。 ② 国際総合研究学会 加藤隆研究基金 採択 (2020年1月から2年間) ③ 「バーナード基礎理論における日本農業経営への応用—持続生ある組織の概念的測定を求めて—」新潟国際情報大学 経営情報学部紀要 第2号、2019年、102-121ページ。 ④ 令和元年度 大学と連携した地域活性化事業 (集落・大学協働型) (柏崎市石黒地区) 採択 ⑤ 平成31年度「域学連携地域づくり応援事業」(佐渡市羽茂小泊集落)「農・能イベント持続的発展のための協働と情報拡散」共同採択 ⑥ 「創成期からみる錯綜する経営理論の一考察—「栄養失調」な統合理論として真髓—」『国際経営フォーラム』国際経営研究所、2018年、(29) 189-221ページ。 ⑦ 「SWOT分析を用いたベトナム市場における日本技術輸出可能性」『中小企業庁：JAPANブランド育成支援事業「かわさきそだち」と食の安全・品質を支える技術を世界に発信』SOSA地域活性化センター、2017年。 ⑧ 「農業における日本とEUとの輸出入可能性—マーケティング調査によるコミュニティを意識して—」『中小企業庁：JAPANブランド育成支援事業「かわさきそだち」と食の安全・品質を支える技術を世界に発信』SOSA地域活性化センター、2017年。 ⑨ 「農業経営主体の構造からみるマーケティング・コンセプトの必要性—組織化による適用を目指して—」『国際経営論集』神奈川大学経営学部、2017年、(54) 109-125ページ。 学会発表 (2017年以降のみを表記) ① 「佐渡の持続的発展に関する実証研究—循環型農業と学生の力に焦点を当てて—」国際総合研究学会第78回大会於嘉悦大学、2018年。 ② 「経営学という学問の一考察—“科学”という視点から—」国際総合研究学会第77回大会於兵庫県立大学、2018年。 ③ 「日本における農産物、農業技術の輸出可能性—ベトナム現地調査を中心として—」国際総合研究学会第74回大会於江戸川大学、2017年。
所属学会	公共選択学会、日本経済政策学会、日本マネジメント学会、日本経営診断学会、国際総合研究学会 (理事、監事)、日本経営学会。
その他	QLT研究会、サロン de WINE、GSIJ研究部会 (Global Sustainability Institute of Japan, 東京) 新潟県農業経営相談所登録専門家 (魚沼市下折立販売組合担当)

経営情報学部 情報システム学科

安藤 篤也

石井 忠夫

石川 洋

宇田 隆幸

梅原 英一

上西園 武良

桑原 悟

小林 満男

近山 英輔

河原 和好

中田 豊久

宮北 和之





氏名 性別 生年月日 職名 連絡方法 学位 学歴

アンドウ アツヤ
安藤 篤也 ANDO Atsuya
男

1964年7月16日

教授 (2019年10月)

E-mail : atsuya@nuis.ac.jp

1990年3月 北海道大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 修士課程修了 修士 (工学)

2013年3月 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士課程修了博士 (工学)

博士 (工学) 筑波大学 2013年3月

1990年4月-2000年3月 日本電信電話株式会社・NTT無線システム研究所 (入社)

2000年4月-2003年3月 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)環境適応通信研究所 (出向)

2003年4月-2014年6月 NTTアクセスサービスシステム研究所 (復帰)

2014年7月-2019年9月 NTT未来ねっと研究所

2014年9月-2020年3月 東京理科大学非常勤講師

2016年6月 電子情報通信学会英文論文誌(C分冊・エレクトロニクス) 論文賞受賞
無線通信

受賞歴 研究分野 主要業績

- ① K. Shirai, Y. Amano, A. Ando, and T. Uda, "Spatial properties of production flow system based on riemannian manifold structure," International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), vol. 17, 2021. (to be published.)
- ② K. Shirai, Y. Amano, and A. Ando, "Analytical mechanics approach to conservation in production field," International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), vol.17, no.1, pp.67-91, Feb. 2021.
- ③ 長谷川 雅人, 長 敬三, 安藤 篤也, "周波数選択性反射板を用いた2周波数共用水平偏波反射板付ダイポールアンテナ," 電子情報通信学会論文誌, vol. J101-B, no. 9, pp. 737-748, (2018-09).
- ④ K. Cho, H. So, and A. Ando, "HPBW control of dipole antenna with frequency selective reflector using different size elements," IEICE Communications Express, vol. 5, no. 3, pp. 90-94, March 2016.
- ⑤ H. So, A. Ando, T. Seki, M. Kawashima, and T. Sugiyama, "Multiband sector antenna with same beamwidth employing multiple woodpile metamaterial reflectors," IEICE Trans. Electron., vol.E97-C, no.10, pp.976-985, Oct. 2014.
- ⑥ S. Ueno, A. Ando, T. Seki, Y. Takatori, and T. Hiraguri, "Experimental investigations of co-channel interference reduction effect at high elevation base station using beam tilt and orthogonal polarization," Hindawi, International Journal of Antennas and Propagation, volume 2014, 8 January 2014, Article ID 532743.
- ⑦ H. So, A. Ando, T. Seki, M. Kawashima, and T. Sugiyama, "Directional multi-band antenna employing frequency selective surfaces," IET Journals, Electronics Letters, vol. 49, no. 4, pp. 243-245, Feb. 14, 2013.
- ⑧ A. Ando, T. Taga, A. Kondo, K. Kagoshima, and S. Kubota, "Mean effective gain of mobile antennas in line-of-sight street microcells with low base station antennas," IEEE Trans. Antennas Propagat., vol. AP-56, no. 11, pp. 3552-3565, Nov. 2008.
- ⑨ A. Ando, K. Kagoshima, A. Kondo, and S. Kubota, "Novel microstrip antenna with rotatable patch fed by coaxial line for personal handy-phone system units," IEEE Trans. Antennas Propagat., vol. AP-56, no. 8, pp. 2747-2751, Aug. 2008.
- ⑩ 山田 涉, 北 直樹, 安藤 篤也, 伊藤 俊夫, "5.2GHz帯ストリートマイクロセル環境における指向性アンテナを用いた基地局間MIMO伝搬特性と伝搬特性推定法," 電子情報通信学会論文誌, vol. 91-B, no. 3, pp. 260-271, (2008-03).
- ⑪ 山田 涉, 北 直樹, 安藤 篤也, 伊藤 俊夫, "5.2GHz帯ストリートマイクロセル環境における指向性アンテナを用いた基地局間MIMO伝搬特性と伝搬特性推定法," 電子情報通信学会論文誌, vol. 91-B, no. 3, pp. 260-271, (2008-03).
- ⑫ A. Ando, Y. Honma, and K. Kagoshima, "A novel electromagnetically coupled microstrip antenna with a rotatable patch for personal handy-phone system units," IEEE Trans. Antennas Propagat., vol. AP-46, no. 6, pp. 794-797, June 1998.
- ⑬ 常川 光一, 鹿子嶋 憲一, 安藤 篤也, "小形無線機アンテナの多重波中利得と筐体長の関係," 電子情報通信学会論文誌, 電子情報通信学会論文誌, vol. 75-B-II, no. 10, pp. 705-707, (1992-10).

所属学会 その他

電子情報通信学会 (IEICE) 米国電気電子学会 (IEEE)

2017年1月-2017年3月 筑波大学システム情報工学研究科 学位論文審査委員会委員 (副査)

2019年1月-2019年3月 筑波大学システム情報工学研究科 学位論文審査委員会委員 (副査)

2020年8月6日 重要産業技術基盤調査勉強会講師 (経済産業省)

2021年1月-2021年3月 筑波大学システム情報工学研究科 学位論文審査委員会委員 (副査)



氏名 石井 忠夫
 性別 男
 生年月日 1955年11月3日
 職名 教授 (2018年4月)
 連絡方法 E-mail : ishii@nuis.ac.jp
 学歴 1980年 山形大学工学部電子工学科卒業
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了
 工学修士 (山形大学、1982年3月)
 博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)
 職歴 1982年 日立製作所 入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学
 分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度計、
 液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。
 2015年9月～2016年8月 Łódź大学心理学部認知科学科客員教授
 研究分野 1) 非標準論理、特にnon-Fregean logicの体系の研究
 2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究
 3) 量子計算の体系の研究
 主要業績 論文

イシイ タダオ
 石井 忠夫 ISHII Tadao
 男

1955年11月3日

教授 (2018年4月)

E-mail : ishii@nuis.ac.jp

1980年 山形大学工学部電子工学科卒業

2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了

工学修士 (山形大学、1982年3月)

博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)

1982年 日立製作所 入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学
 分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度計、
 液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。

2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。

2015年9月～2016年8月 Łódź大学心理学部認知科学科客員教授

1) 非標準論理、特にnon-Fregean logicの体系の研究

2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究

3) 量子計算の体系の研究

論文

- ① [Propositional calculus with identity], Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104.
- ② [A note on varieties of PCI-algebras with EDPC], Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81.
- ③ [Propositional calculus with identity], Proceedings of the 31st MLG meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, pp.22-24.
- ④ [Modality, implication and identity], XLV History of Logic Conference, October 26-27, Jagiellonian University, Kraków, Poland 1999.
- ⑤ [An Extension of Martin-Löf's Type Theory with an Evolution Relation], Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9-12, Japan 2001, pp.33-37.
- ⑥ [A formal theory of the calculus of indication], Bulletin of NUIS, Vol.9, 2006.
- ⑦ [ソフトウェア仕様の差分について], Bulletin of NUIS, Vol.10, pp.147-154, 2007.
- ⑧ [ソフトウェア仕様とプログラムの導出], Bulletin of NUIS Vol.12, pp.141-150, 2009.
- ⑨ [構成的型理論に基づいた定理証明プログラムの試作], Bulletin of NUIS, Vol.13, pp.71-84, 2010.
- ⑩ [SCI for Pair-Sentence], the 13th Studia Logica International Conference on Trends in Logic XIII, University of Łódź, Poland 2014, pp.10-12.
- ⑪ [A system of pair sentential calculus that has a representation of the Liar sentence], Bulletin of NUIS Vol.1, 2015, pp.1-10.
- ⑫ [A syntactical comparison between pair sentential calculus PSC and Gupta's definitional calculus Cn], Bulletin of NUIS Vol.2, 2016, pp.1-13.
- ⑬ [SCI for pair-sentence and its completeness], the Conference on Non-Classical Logics, Theory and Applications, University of Łódź, September 5-7, Poland 2016, Vol.8, pp.61-65.
- ⑭ [Some syntactical and semantical properties for pair sentential calculus PSC], Bulletin of NUIS Vol.3, 2017, pp.12-26.
- ⑮ [Modalities on pair sentential calculus PSC], the 9th International Workshop on Logic and Cognition : Non-classical Modal and Predicate logics, Sun Yat-sen University (広州、中国), December 4-8, 2017, pp.1-3.
- ⑯ [The definition of sequential machine by PSC], Bulletin of NUIS vol.4, 2018, pp.19-32.
- ⑰ [論理における真理値の複素数表記], 経営情報紀要第4号, 2020, pp.1-13.

所属学会

日本数学会
 日本ソフトウェア科学会
 情報処理学会
 情報システム学会



氏名	イシカワ ヒロシ 石川 洋 ISHIKAWA Hiroshi
性別	男
生年月日	1963年6月24日
職名	教授 (2018年4月)
連絡方法	E-mail : ishihiro@nuis.ac.jp
学歴	1986年 静岡大学理学部数学科卒業 1989年 金沢大学大学院理学研究科修了 1998年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了
学位	博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、1998年3月)
職歴	1989年4月 株式会社CSK総合研究所入社、エキスパートシステム開発に従事 1998年4月 福山大学工学部情報処理工学科 助手 2007年4月 福山大学人間文化学部メディア情報文化学科 専任講師
研究分野	①形式仕様言語による記述の自動検証に関する研究 ②統合開発環境におけるリファクタリングの自動化に関する研究
主要業績	論文 ① An Example for Concurrent Reflective Computations in Rewriting Logic, First IFIP Workshop on Formal Methods for Open Object-based Distributed Systems, pp.178-185 (1996) ② On the Semantics of GAEA, Proceedings of FLOP, pp.123-142 (1998) ③ Z仕様から代数仕様への自動変換に関する考察、第20回ソフトウェアシンポジウム論文集、pp.31-38 (2000) ④ A Specification Construction Unit-based editor for Z, Proceedings of 29th COMPSAC Workshops and Fast Abstract, pp.5-6 (2005) ⑤ An Approach for Refactoring using ESC/Java2 -A Simple Case Study-, NEW TRENDS IN SOFTWARE METHODOLOGIES, TOOLS AND TECHNIQUES, pp.61-72 (2009) ⑥ A Tentative Approach to Program Refactoring with UML Editor Plug-in for Eclipse, Proceedings of ITC-CSCC 2012, 4pages (2012) ⑦ ProBを用いたVDMの陰仕様の解釈実行の試み、ソフトウェア工学の基礎XXI、日本ソフトウェア科学会FOSE2014、pp.171-176 (2014) ⑧ Interpreting Implicit VDM Specifications using ProB, Proceedings of the 12th Overture Workshop on VDM, Newcastle University Computing Science Technical report, CS-TR-1446, pp.6-20 (2015) ⑨ An Approach to do Big Refactoring by using Eclipse UML Plugin, Proceedings of 2018 International Conference on Engineering and Natural Science, 13 pages (2018) ⑩ A Simple Example of Refactoring codes with modifying Class Diagram using an Eclipse Plug-in, Proceedings of ITC-CSCC2019, 4 pages (2019) ⑪ A Case Study of Refactoring with UML Editor Plug-in for Eclipse -Replace Type Code with State/Strategy-, Proceedings of ITC-CSCC2020, 5pages (2020) 学会活動 ⑫ 情報学を専門とする学科対象の教育カリキュラム標準の策定及び提言 (J17-IS報告書) 共著,情報処理学会・情報処理委員会・情報システム (IS) 教育委員会, 41ページ (2018) https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/j07/ed_j17-IS.html ⑬ IS デジタル辞典ー重要用語の基礎知識ー第二版、編集委員、情報処理学会、情報システムと社会環境研究会 (2019) https://ipsj-is.jp/isdic
所属学会	日本ソフトウェア科学会、情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本数式処理学会、情報システム学会、ACM、IEEE
その他	Guest Researcher, Aarhus University (Denmark) (2013.9-2014.8) 情報処理学会・情報システム教育委員会委員 (2016.5 ~) 情報処理学会・アクレディテーション委員会委員 (2017.6 ~)



氏名	ウダ タカユキ 宇田 隆幸 UDA Takayuki
性別	男
生年月日	1961年8月2日
職名	教授 (2016年4月)
連絡方法	E-mail : uda@nuis.ac.jp
学歴	学部課程：図書館情報大学 (卒業) 修士課程：図書館情報大学 (修了) 博士課程：筑波大学 (中退)、東北大学 (修了)
学位	博士 (情報科学)、東北大学、2009年9月
職歴	【常勤、正規】 株式会社日本総合研究所 (システム開発職) (9年)、株式会社ジョイン・システム開発 (代表取締役) (9年)、アラン株式会社 (CTO、システム開発事業部長) (13ヶ月)、株式会社ネオジェイエスケー (取締役) (5年)、学校法人岩崎学園 (教職員) (2年)、学校法人近畿大学 (工業高専教授) (6年) 【非常勤】 田園調布学園大学社会福祉学部社会福祉学科 (非常勤講師) (3年)、国立東京工業高等専門学校情報工学科 (非常勤講師) (3年)
受賞歴	図書館情報大学学長 (兼 筑波大学学長) より研究成績優秀 (修了生首席総代) により賞状授与 (2004年3月)
研究分野 主要業績	知識処理 (人工知能、自然言語処理、Webマイニング) ① 名張市民意識調査アンケートの分析、2014年。 ② 名張商工会議所における貸室管理システムについての分析報告、2014年。 ③ 名張市民意識調査アンケートの分析、2013年。 ④ “擬似投票方式に基づくハイブリッドフィルタリングシステムにおける推薦予測精度の改良” (査読論文) (共著)、情報処理学会論文誌、Vol.51, No.2, pp.542-554、2010年。 ⑤ “擬似投票方式に基づくハイブリッド型情報推薦システムに関する研究” (博士論文)、東北大学、2009年。 ⑥ “情報フィルタリングの利用システム”、情報の科学と技術 Vol.56, No.10, pp.458-463、2006年。 ⑦ “Improvement of Pseudo-voting method in Recommender Systems”、Proc. 1st. Int. Workshop on Information Credibility on the Web (WISCOW07), JSAI, pp.41-48、2007年。 ⑧ “テキスト情報を対象としたハイブリッド型情報推薦システムにおける擬似投票方式”、情報処理学会論文誌 Vol.45, No.5, pp.1246-1255、2005年。 ⑨ 情報推薦方式 (特許 20046281)、2004年。 ⑩ シニア世代におけるWWWコミュニティ利用促進に関する研究報告、2002年。 ⑪ ゴルフ場予約システム (楽天GORA) 開発、1999年。 ⑫ CDMA基地局研究・開発、1996年。 ⑬ VAN NP 通信プロトコルコンバータ開発、1989年。 ⑭ ファームバンキング用通信プロトコル策定およびシステム設計・開発、1984年。 ⑮ 情報入力装置 (特許 昭58-237125)、1983年。
所属学会	情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本教育工学会、情報システム学会、日本データベース学会、ACM
その他	公益財団法人図書館振興財団 専門書・学術書選書委員会 選書員 (2015年4月～) 新潟市水道事業経営審議会委員 (2017年9月～) 国土 (魚沼市土) 利用計画 魚沼市審議会委員 (2017年10月～ 2019年3月) 弥彦村学校運営協議会委員長 (2019年4月～) 弥彦村教育委員会 第3期弥彦村教育振興基本計画策定委員 (2020年9月～ 2021年3月)



氏名	ウメハラ エイチ 梅原 英一 UMEHARA Eiichi
性別	男
生年月日	1955年9月5日
職名	教授 (2021年4月)
連絡方法	umehara@nuis.ac.jp
学歴	東京工業大学工学部経営工学科 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了 電気通信大学大学院情報システム学研究科博士後期課程修了
職位	博士 (工学)、電気通信大学、2006年3月 川崎製鉄株式会社 (現JFE) (2年5ヶ月) 株式会社野村総合研究所 (29年)
受賞歴	東京都市大学メディア情報学部情報システム学科教授 (8年7ヶ月) 2006年9月 日本社会情報学会論文奨励賞 2013年10月 経営情報学会論文賞 2020年2月 日本印刷学会論文賞
研究分野	経営情報システム、社会情報システム
主要業績	<ol style="list-style-type: none"> ① 梅原英一: 大学図書館のデジタル・トランスフォーメーションに対する組織のIT活用能力, 日本印刷学会誌, 第58巻1号, pp.18-22 (2021) ② 林浩輝, 梅原英一, 小川祐樹: 否決された大阪都構想のTwitter投稿における世論形成理論成立の考察, 社会情報学, 第8巻3号, pp.165-175 (2020) ③ 梅原英一, 加藤奈美恵, 諏訪博彦, 小川祐樹, 杉浦昌: 組織における個人情報保護行動モデルの構築—従業員の個人情報保護行動を促進するためには—, 社会情報学, 第8巻3号, pp.81-95 (2020) ④ Sasaki, K., Suwa, H., Ogawa, Y., Umehara, E., Yamashita, T., Tsubouchi, K. "Evaluation of VI Index Forecasting Model by Machine Learning for Yahoo! Stock BBS using Volatility Trading Simulation, "Proceedings of HICSS2020 (Hawai International Conference on System Science), (2020). ⑤ 渡部和雄, 梅原英一, 岩崎邦彦: 紙出版物利用者と紙・電子出版物併用者の意識や行動の計量分析, 日本印刷学会誌, 第56巻3号, pp.146-152(2019) ⑥ 渡部和雄, 岩崎邦彦, 梅原英一: 紙書籍, 電子書籍の利用者の定量分析と利用促進策—意識や行動の差異に着目して—, 経営情報学会誌, 第27巻4号, pp.301-315 (2019) ⑦ 渡部和雄, 梅原英一, 岩崎邦彦: 消費者のO2O (Online to Offline) 行動の差異に基づいた消費者特性の分析と実店舗への誘導への示唆, 情報処理学会論文誌, Vol.57, No.8, pp.1887-1897 (2016) ⑧ K. Watabe, K. Iwasaki, E. Umehara: Factors and Models for Promoting Consumer Use of Electronic Money, .International Journal of Japan Association for Management Systems, pp7-14 (2015) ⑨ 諏訪博彦, 梅原英一, 太田敏澄: インターネット株式掲示板の投稿内容分析に基づくファクターモデル構築の可能性, 人工知能学会論文誌, 27巻6号, pp.376-383 (2012) ⑩ 梅原英一: 情報システム障害に関するITベンダーとの契約におけるゲーム理論による分析, 経営情報学会誌, 第21巻1号, pp.1-13 (2012) ⑪ E. Umehara, T. Ohta: Game of Risk Communications-The Case of a Japanese Carmaker, IEEE Transactions on Systems, Man, and Cybernetics-part A, Vol.41, No.4, pp.651-661 (2011) ⑫ E. Umehara, T. Ohta: Using Game Theory to Investigate Risk Information Disclosure by Government Agencies and Satisfying the Public - The Role of the Guardian Agent, IEEE Transactions on Systems, Man, and Cybernetics-part A, Vol.39, No.2, pp.321-330 (2009) ⑬ 丸山健, 梅原英一, 諏訪博彦, 太田敏澄: インターネット株式掲示板の投稿内容と株式指標の関係, 証券アナリストジャーナル11月・12月合併号, pp.110-127 (2008) ⑭ 梅原英一, 太田敏澄: 情報システムの統治組織の有効性比較, 経営情報学会誌, 第17巻2号, pp.39-59 (2008)
所属学会	経営情報学会、社会情報学会、情報処理学会
その他	横浜市本人確認情報等保護審議委員会委員 (2013-2016) 東京都市大学名誉教授 (2021年4月より)



氏名	カミニシゾノ タケヨシ 上西園 武良 KAMINISHIZONO Takeyoshi
性別	男
生年月日	1951年5月17日
職名	教授 (2010年4月)
連絡方法	E-mail : tkami@nuis.ac.jp
学歴	1974年3月 神戸大学理学部物理学卒業 1976年3月 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了
学位	博士 (学術、大阪市立大学大学院、2009年12月)
職歴	1977年4月 アイシン精機株式会社入社、住生活機器 (ベッド、枕、ミシン、温水洗浄便座など) の企画・研究開発に従事 2004年1月 同社 主席技師 2010年4月より現職
研究分野	人間工学、特に人間中心設計 (HCD) を実現するための設計論。具体的には、ヒトの特性 (物理的寸法・感覚・運動能力・認知) に適合した機器・日用品の設計手法の研究、良質な睡眠のための寝具の研究など。人間工学に関する製品開発・改良について、外部の企業と協同研究を実施している。
主要業績	論文 査読付き ① Kaminishizono T.: Reducing the Pulling Force on Plastic Bag Rolls, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA2018) Volume VII, pp.27-32, 2018年 ② 田中由美, 上西園武良: 「ビニール袋の取り出し易さ向上に関する研究」, 人間生活工学, pp.27-32, Vol.17, No.2, 2016年 ③ 上西園武良, 藤井勇次: 「段差付キーによる誤タイピング低減」, 人間工学, pp.126-132, Vol.55, No.3, 2014年 ④ Kaminishizono T., Sakai S.: Preliminary Research to Decrease Splashing Mud During Walking, PROCEEDINGS of the HUMAN FACTORS and ERGONOMICS SOCIETY 56th ANNUAL MEETING, pp.1922-1926, 2012年 ⑤ 上西園武良, 細井広康, 川原理恵, 岡田明: 「家庭用ミシンの操作性に関する研究」, 人間工学, pp.178-182, Vol.45, No.3, 2009年 ⑥ 上西園武良, 岡田明: 「生活機器における感覚機能に対する設計解についての研究」, 人間中心設計, pp.21-28, Vol.5, No.1, 2009年 ⑦ 上西園武良, 葉袋賢一, 岡田明: 「温水洗浄便座における洗浄強さ感に関する研究 洗浄強さ感を設計値に変換する方法について」, デザイン学研究, pp.83-88, Vol.55, No.2, 2008年 ⑧ 上西園武良, 岡田明, 池浦良淳: 「枕の開発における効率的な人間中心設計の方法 寝返り性能を設計値に変換する方法について」, デザイン学研究, pp.29-34, Vol.54, No.5, 2008年 ⑨ 村田康弘, 池浦良淳, 上西園武良, 内藤公孝, 和阪学弘, 安達優, 水谷一樹, 澤井秀樹: 「枕上における頭部の寝返り抵抗トルクの解析」, 機械学会論文集 C編, pp.1539-1545, Vol.74, No.742, 2008年 ⑩ Kaminishizono T., Okada A.: Research concerning human-centred design; applicability to a household sewing machine, Related papers; Posters, 16th World Congress on Ergonomics, 2006年 ⑪ 上西園武良, 森井達弥, 木村禎祐, 折居直純: 「快適睡眠寝室の開発 光環境による目覚めの最適化」, 人間生活工学, pp.25-29, Vol.7, No.3, 2006年
所属学会	日本人間工学会 (JES)、米国人間工学会 (HFES) JES (日本人間工学会) 認定人間工学専門家
その他	企業との共同研究 ・「サッカー台用ロール器具のユーザビリティの向上」、(株)太幸、2015～2017年



氏名	クワハラ サトル 桑原 悟 KUWAHARA Satoru
性別	男
生年月日	1956年7月15日
職名	教授 (2008年4月)
連絡方法	E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp
学歴	1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業 1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業 1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了 2008年3月 東京農工大学大学院博士後期課程単位取得満期退学
学位	工学修士 (東京農工大学、1983年3月)
職歴	1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任 2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ
研究分野	情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。
主要業績	論文 ① 状態をもった内部表現でプログラムを保持するプログラミング教育環境の有効性の検討 共著、2007.9 電子情報通信学会 信学技報 ② 初心者プログラミング環境に関する一考察 単著、FIT2007 ③ e-japan / u-japanにおける一般利用者のための情報セキュリティ認知の社会環境に関する一考察 単著、2005.11 情報処理学会IS研究報告 情報処理学会 ④ ビジネスアプリケーションのための新しいアクセス管理の視点 単著、2005.3 新潟国際情報大学紀要第8号 新潟国際情報大学 ⑤ 「大学の役割とIT化に関する一考察」単著、2003.9 情報処理学会 IS研究報告 情報処理学会 ⑥ 「地方私立大学におけるIT利用に関する一考察」 単著、2003.3 新潟国際情報大学紀要第6号 新潟国際情報大学 ⑦ 「Mobile phone as secure terminal for e-business」 単著、2002.8 Japan-US Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA ⑧ 「EC・セキュリティソリューション」、2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他 ⑨ 「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」 共著、2000.1 (財) 関西情報センタ機関紙 (財) 関西情報センタ 桑原、中村 ⑩ 『三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実際』 日本テクノセンター セミナー講演、1999年 ⑪ 『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』 共著、1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤
所属学会	情報処理学会 情報システム学会 日本リスク研究学会
その他	・ CISA (Certified Information Systems Auditor) ・ CISM (Certified Information Security Manager) ・ 東京農工大学 非常勤講師 (2002～) ・ 情報処理技術者試験 (経済産業大臣所管) 試験委員 (1992～2012) ・ Visiting Professor, University of Alberta (2007) ・ 第二種電気工事士、認定電気工事従事者、第三種電気主任技術者



氏名	コバヤシ ミツオ 小林 満男 KOBAYASHI Mitsuo
性別	男
生年月日	1955年4月18日
職名	教授 (2011年4月)
連絡方法	E-mail : mitsuo@nuis.ac.jp
学歴	1976年3月 仙台電波工業高等専門学校電波通信学科卒業 1985年3月 東京理科大学工学部Ⅱ部電気工学科卒業 1998年3月 産能大学大学院経営情報学研究科修士課程修了 2006年3月 埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程修了
職位	博士 (経済学、埼玉大学、2006年3月) 1976年4月 日本電信電話公社入社。自動車電話方式・デジタルマイクロ波方式・衛星通信システム等の開発・導入及び法人営業・SEに従事 2011年3月 NTTコミュニケーションズ株式会社を退職
研究分野	(1) 企業、公共分野における情報通信システムの利活用の研究 (2) 競争戦略形成プロセスの研究
主要業績	論文 ・小林満男「PBLによる情報システム開発教育の実践」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2015年4月 ・M. Tanaka, H. Sakamoto, M. Kobayashi & Y. Kitayama, "Estimation of Unwanted Spurious Domain Emissions From a Multicarrier Transmitter", IEEE Transaction on AEROSPACE AND ELECTRONIC SYSTEMS, Vol50, No.3 (p2293-p2303), July 2014 ・小林満男「新潟国際情報大学における情報システム教育改善の取り組み」『情報処理』Vol.55 No.9 (1008～1011頁)、2014年8月15日 ・小林満男・小宮山智志・上西園武良「緩やかなインタラクションを重視した情報システム教育の実践」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、2014年4月 ・Masayoshi TANAKA, Hiroshi SAKAMOTO, Mitsuo KOBAYASHI, Yukiharu KITAYAMA, "Unwanted Emissions of Multi-carrier Transmitter in Spurious Domain", 26th AIAA, ICSSC2008 [The Best Paper] ・田中将義・坂本宏・小林満男・北山行治「マルチキャリア運用時の送信機からのスプリアス領域発射の検討」(信学技報)、2008年5月 ・小林満男「法人営業現場における持続的競争優位の構築」埼玉大学経済科学論究、2005年3月 ・小林満男「業界の常識の観点からみた競争戦略」竹野内情報工学研究所、2004年11月 ・小林満男「アドホックP2P無線網のビジネスモデルの検討」竹野内情報工学研究所、2003年11月 ・小林満男・根来龍之「規制された業界の業界変革モデルの提案」産能大学紀要、1998年9月 ・栗原功幸・小林満男・伊藤清敏「4/5/6L-D1方式用現場試験」電電公社研実報 Vol.31、No.7、p1333～p1348、1982年
所属学会	日本経営学会、組織学会、経営戦略学会、経営情報学会、情報システム学会 電子情報通信学会、日本技術士会
その他	技術士 (電気電子)、中小企業診断士 (1991年登録、現在休止中) 情報処理技術者 (特種) 無線従事者 (第1級総合無線通信士・第1級陸上無線技術士) 電気主任技術者 (第2種)、電気通信主任技術者 (伝送交換・線路) 長野大学企業情報学部 非常勤講師 (2008) 立教大学経営学部 兼任講師 (2010) 明治大学 (The Institute of Organizational Discourse) 客員研究員 (2007～) 東京理科大学理窓技術士会運営委員 (2008～) 新潟市水道事業経営審議会委員 (2011.10～2017.9) 一般財団法人自治体衛星通信機構理事 (2012.4～) 経営情報学会理事 (2005～2006、2013～2016) 2014年秋季全国大会大会委員長 情報システム学会理事 (2017～) 新潟市西川図書館協議会委員 (2013～2016) 会長 (2017～2018) 新潟市黒埼商工会経営発達支援事業評価委員会委員 (2017～) 日本経営学会第92回大会 (2018) 大会委員長 新潟砂丘遊々会事務局 (2018～) 新潟市西区赤塚中学校 学校評議員 (2020～)



氏名	チカヤマ エイスケ 近山 英輔 CHIKAYAMA Eisuke
	性別 男
生年月日	1971年4月16日
	職名 教授 (2017年4月)
連絡方法	E-mail : chikaya@nuis.ac.jp
	学歴
学歴	1993年3月 長岡工業高等専門学校土木工学科卒業
	1995年3月 長岡技術科学大学工学部生物機能工学課程卒業
学歴	1997年3月 長岡技術科学大学大学院工学研究科生物機能工学専攻修士課程修了
	博士 (工学、長岡技術科学大学、2010年6月)
学歴	2000年5月～2005年4月 (特) 理化学研究所ゲノム科学総合研究センターテクニカルスタッフ
	2004年2月～2004年3月 東京農工大学工学部非常勤講師を兼任
学歴	2005年5月～2011年8月 (独) 理化学研究所植物科学研究センター技師
	2010年7月～2011年8月 横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科大学院客員研究員を兼任
学歴	2011年1月～2011年8月 (独) 理化学研究所次世代計算機科学研究開発プログラムを兼任
	2011年9月～2017年3月 新潟国際情報大学准教授
学歴	2019年9月～2020年8月 ヨハネス・ケプラー大学 (オーストリア) 客員教授
	研究分野
研究分野	(1) 生物物理学、生物情報科学
	(2) 生命システムと情報システム
研究分野	(3) 高性能計算 (HPC)
	主要業績
主要業績	論文
	① S. Yamada, E. Chikayama, and J. Kikuchi, "Signal Deconvolution and Generative Topographic Mapping Regression for Solid-State NMR of Multi-Component Materials", International Journal of Molecular Sciences 22, 1086 (2021)
主要業績	② S. Yamada, K. Ito, A. Kurotani, Y. Yamada, E. Chikayama, and J. Kikuchi, "InterSpin: Integrated Supportive Webtools for Low- and High-Field NMR Analyses Toward Molecular Complexity", ACS Omega 4, 3361-3369 (2019)
	③ K. Ito, Y. Obuchi, E. Chikayama, Y. Date, and J. Kikuchi, "Exploratory machine-learned theoretical chemical shifts can closely predict metabolic mixture signals", Chemical Science 9, 8213-8220 (2018)
主要業績	④ E. Chikayama, et al., "Transcendental Number in Wonderland", math Horizons 24, 22 (2017)
	⑤ E. Chikayama, R. Yamashina, et al., "FoodPro: A Web-based Tool for Evaluating (Ovariance and Correlation NMR Spectra Associated with Food Processes", Metabolites 6, 36 (2016)
主要業績	⑥ E. Chikayama, et al., "The Effect of Molecular Conformation on the Accuracy of Theoretical ¹ H and ¹³ C Chemical Shifts Calculated by Ab Initio Methods for Metabolic Mixture Analysis", Journal of Physical Chemistry B 120, 3479-3487 (2016)
	⑦ E. Chikayama, "Decomposition of multivariate function using the Heaviside step function", SpringerPlus 3, 704 (2014)
主要業績	⑧ E. Chikayama, Y. Sunaga, S. Noda, H. Yokota, "Solvable model for chemical oscillations", Journal of Mathematical Chemistry 52, 399-406 (2014)
	⑨ T. Mori, E. Chikayama, Y. Tsuboi, N. Ishida, N. Shisa, Y. Noritake, S. Moriya, J. Kikuchi, "Exploring the conformational space of amorphous cellulose using NMR chemical shifts", Carbohydrate Polymers 90, 1197-1203 (2012)
主要業績	⑩ Y. Ogata, E. Chikayama, Y. Morioka, R. C. Everroad, A. Shino, A. Matsushima, H. Haruna, S. Moriya, T. Toyoda, J. Kikuchi, "ECOMICS: A Web-Based Toolkit for Investigating the Biomolecular Web in Ecosystems Using a Trans-omics Approach", PLoS ONE 7, e30263 (2012)
	所属学会
所属学会	日本生物物理学会、日本核磁気共鳴学会、日本磁気共鳴医学会、バイオスーパーコンピューティング研究会
	その他
その他	2011年9月～ 理化学研究所客員研究員



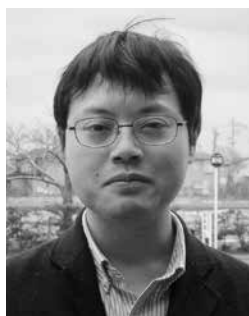
氏名	カワハラ カズヨシ 河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi
性別	男
生年月日	1969年9月8日
職名	准教授 (2019年4月)
連絡方法	E-mail : kawahara@nuis.ac.jp
学歴	1993年 信州大学工学部情報工学科卒業 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了
学位	博士 (工学) (信州大学、1998年3月)
職歴	1998年4月～1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤研究員
研究分野	画像処理に関する研究。コンピュータビジョンとその応用 (ロボット、AR、VR)、3次元画像作成、コンピュータを用いた教育手法
主要業績	論文 ① 「ファジィ理論を用いた画像処理」 (共著)、1997年1月、電子情報通信学会論文誌 D-Ⅱ、Vol.J80-D-Ⅱ、No.1、pp.166-174 ② 「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with Fuzzy Set」 (共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97), Vol.2, pp.1013-1016 ③ 「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」 (共著)、1997年12月 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech and Image Technologies for Computing and Telecommunications, Vol.1 pp.333-334 ④ 「Edge Analysis of Digital Mammogram」 (共著)、1999年10月、Proc.of 2nd MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium, pp.339-342 ⑤ 「ファジィ理論を用いた画像の特徴抽出」 (単著)、2005年3月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号、pp.169-178 ⑥ 「福祉・介護・健康に関する画像処理の研究 ―視覚のシミュレーション―」 (単著)、2016年4月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、pp.14-22 ⑦ 「小学生を対象にしたプログラミング教育について」 (単著)、2017年4月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.3、pp.27-35 ⑧ 「IoT による地盤沈下の観測」 (単著)、2019年4月、新潟国際情報大学経営情報学部紀要、Vol.2、pp.1-12 ⑨ 「無人航空機 (ドローン) による水田と白鳥の観察」 (共著)、2019年4月、新潟国際情報大学経営情報学部紀要、Vol.2、pp.21-28
所属学会	電子情報通信学会 情報処理学会



氏名 ナカダ トヨヒサ 中田 豊久 NAKADA Toyohisa
 性別 男
 生年月日 1970年11月5日
 職名 准教授 (2021年4月)
 連絡方法 E-mail : nakada@nuis.ac.jp
 学歴 1993年 東京工科大学機械制御工学科卒業
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了
 学位 博士 (知識科学) (北陸先端科学技術大学院大学、2006年3月)
 職歴 1993年 NECロボットエンジニアリング株式会社
 1996年 株式会社日本総研テクノス
 1997年 株式会社ソリトンシステムズ
 2003年 株式会社本田技術研究所
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携研究員
 研究分野 ゲームおよび人工知能の応用に関する研究
 主要業績 論文

- ① Nakada,T. (2017) .Gamified Lecture Courses Improve Student Evaluations but Not Exam Scores.Frontiers in ICT,4,5,doi : 10.3389/fict.2017.00005.2017.04.12
- ② Toyohisa Nakada, "Destination Board System Based on Photographs", Proc. of Knowledge-Based and Intelligent Information and Engineering Systems (KES2010), LNAI Vol.6279, pp.449-456, (2010)
- ③ 中田豊久、“画像による行き先掲示板システム”、グループウェアとネットワークサービス・ワークショップ2009、pp.75-80、Sep. 17-18、(2009)
- ④ 中田豊久、加藤義彦、國藤進、“友人ネットワークの状態遷移図による分析”、情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用、Vol.2 No.1 pp-87-97、(2009)
- ⑤ 中田豊久、金井秀明、國藤進：「スポットライトを用いた屋内での捜し物発見支援システム」、情報処理学会論文誌、Vol.48 No.12、pp.3962-3976 (2007)。
- ⑥ Toyohisa Nakada, Yoshihiko Kato, and Susumu Kunifuji：「A Study on the Dynamics of Friendship Network Formation Using a Directed Network Model」, The 2nd International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS 2007), pp.72-79 (2007) .
- ⑦ 中田豊久、伊藤日出男、國藤進：「ベイジアンネットワークを用いた画像解析による同期信号の判別」、日本知能情報ファジィ学会論文誌、Vol19 No.5、pp.488-498 (2007)。
- ⑧ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji：「Dynamic Book Recommendation Model for Real Bookstores」, In Adjunct Proceedings of The 5th International Conference on Pervasive Computing (Pervasive 2007), pp.53-56 (2007)。
- ⑨ 中田豊久、金井秀明、國藤進：「実世界での利用を考慮した図書推薦モデルの提案と評価」、情報処理学会論文誌、Vol. 48 No. 1、pp.148-162 (2007)s。
- ⑩ 中田豊久、國藤進：「個人ホームページからのサブグループ発見手法の提案」、日本創造学会論文誌、Vol.9、pp.42-59 (2005)。

所属学会 情報処理学会 人工知能学会



氏名
性別
生年月日
職歴
連絡方法

ミヤキタ カズユキ
宮北 和之 MIYAKITA Kazuyuki
男

1982年8月28日
講師 (2020年4月)
E-mail : miyakita@nuis.ac.jp

学位
学歴

2003年3月 長岡工業高等専門学校電気工学科卒業
2005年3月 長岡工業高等専門学校専攻科電子機械システム工学専攻修了
2007年3月 新潟大学大学院自然科学研究科数理・情報電子工学専攻博士前期課程修了
2010年3月 新潟大学大学院自然科学研究科情報理工学専攻博士後期課程修了
博士 (工学)、新潟大学、2010年3月
2010年4月～2012年3月 新潟大学大学院自然科学研究科電気情報工学専攻助教

受賞歴

2012年4月～2020年3月 新潟大学情報基盤センター 助教
2008年9月 IEEE Shin-etsu Section Young Researcher Paper Award 受賞
2009年3月 電子情報通信学会回路とシステム研究会優秀学生発表賞 受賞
2009年10月 IEEE Shin-etsu Section Young Researcher Paper Award 受賞
2010年3月 電子情報通信学会学術奨励賞 受賞
2018年3月 電子情報通信学会安全・安心な生活とICT研究会優秀研究賞 受賞
2019年9月 電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティ貢献賞 受賞

研究分野
主要業績

ネットワーク工学、ネットワーク理論
① K. Miyakita, K. Nakano, M. Sengoku, and S. Shinoda, "Theoretical Analysis of Route Expected Transmission Count in Multi-hop Wireless Networks," IEICE Trans. Commun., Vol.E91-B, No.8, pp.2533-2544. (2008)
② K. Miyakita, K. Nakano, Y. Morioka, M. Sengoku, and S. Shinoda, "Characterization of Minimum Route ETX in Multi-hop Wireless Networks," IEICE Trans. Commun., Vol.E92-B, No.3, pp.745-754. (2009)
③ K. Miyakita, K. Nakano, M. Sengoku, and S. Shinoda, "Characterization of Minimum Route MTM in One-dimensional Multi-hop Wireless Networks," IEICE Trans. Fundamentals, Vol.E92-A, No.9, pp.2227-2235. (2009)
④ A. Otsuka, K. Nakano, K. Miyakita, "Theoretical Analysis of Mean Waiting Time for Message Delivery in Lattice Ad Hoc Networks," Journal of Circuits, Systems, and Computers, Vol.19, No.8, pp.1711-1741. (2010)
⑤ Y-P. Kim, K. Nakano, K. Miyakita, M. Sengoku, Y-J. Park, "A Routing Protocol for Considering the Time Variant Mobility Model in Delay Tolerant Network," IEICE Trans. Inf. & Syst., Vol.E95-D, No.2, pp.451-461. (2012)
⑥ K. Nakano, K. Miyakita, "Analysis of information floating with a fixed source of information considering behavior changes of mobile nodes," IEICE Trans. Fundamentals, Vol.E99-A, No.8, pp.1529-1538. (2016)
⑦ K. Miyakita, K. Nakano, M. Yamashita, H. Tamura, "Simulation study of relief goods delivery and information sharing by epidemic transmission in disaster areas," Journal of Advanced Simulation in Science and Engineering, Vol.3, No.1, pp.114-135. (2016)
⑧ 宮北, 柄沢, 稲川, 中野, "情報フローティングによる交通誘導に関する考察," 電子情報通信学会論文誌B, Vol.J101-B, No.8, pp.603-618. (2018)
⑨ N. Karasawa, K. Miyakita, Y. Inagawa, K. Kobayashi, H. Tamura, K. Nakano, "Information Floating for Sensor Networking to Provide Available Routes in Disaster Situations," IEICE Trans. Commun., Vol.E103-B, No.4, pp.321-334. (2020)

所属学会
その他

電子情報通信学会、IEEE
電子情報通信学会回路とシステム研究専門委員会 幹事補佐 (2011年6月～2013年5月)
電子情報通信学会回路とシステム研究専門委員会 専門委員 (2013年6月～2015年5月)
電子情報通信学会 Fundamentals Review 編集委員 (2013年6月～2015年5月)
電子情報通信学会安全・安心な生活とICT研究専門委員会 幹事補佐 (2017年6月～2018年5月)
電子情報通信学会安全・安心な生活とICT研究専門委員会 幹事 (2018年6月～2019年5月)
日本シミュレーション学会和文論文誌 編集委員 (2019年4月～)
電子情報通信学会安全・安心な生活とICT研究専門委員会 専門委員 (2019年6月～)

新潟国際情報大学研究者総覧 2021

2021年4月 発行

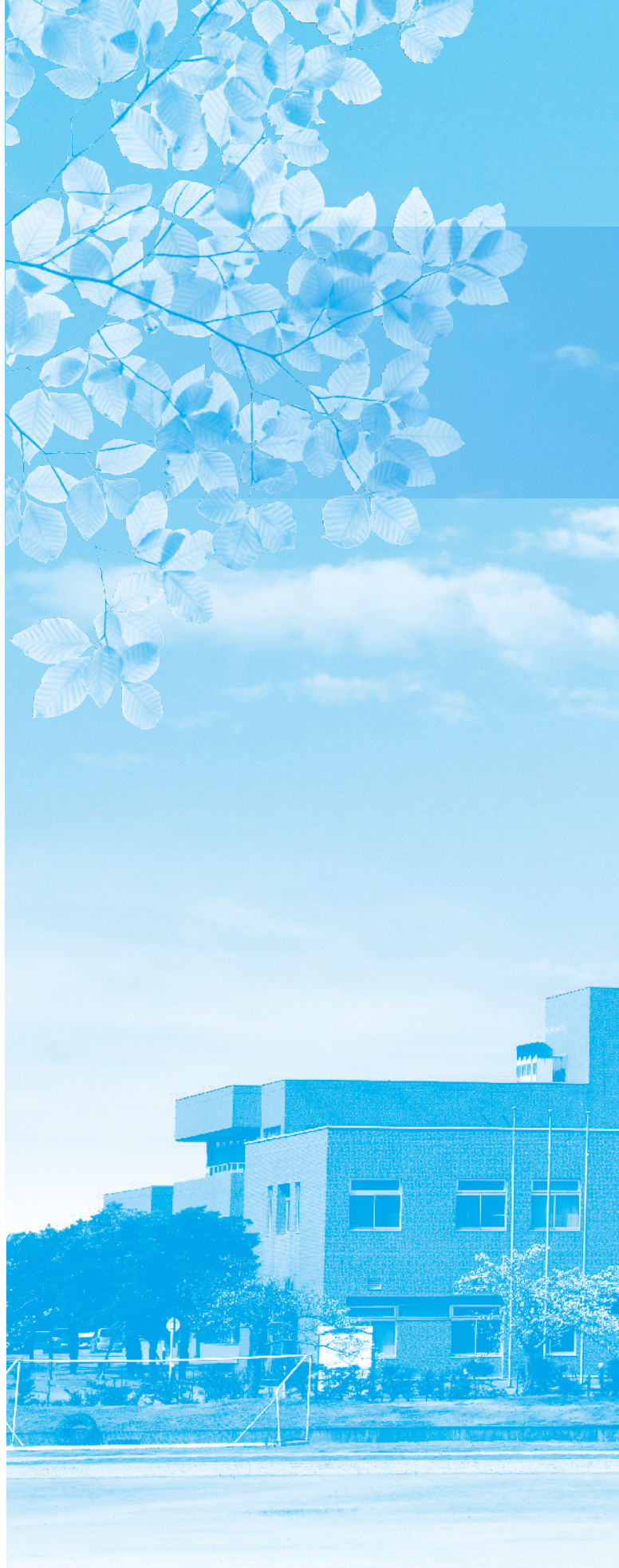
編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市西区みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690



新潟国際情報大学

Niigata University of International and Information Studies

950-2292 新潟市西区みずき野3丁目1番1号
TEL.025-239-3111 FAX.025-239-3690

✉ somu@nuis.ac.jp 🌐 <https://www.nuis.ac.jp/>